授業科目名	和文：法律を考えるＡ －法学－ 英文：　Jurisprudence A : Outline of Civil Law					時　間　割	金 3-4
科目コード	501-0013	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1 期
受講対象学生	全学部 1・2 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名	日本国憲法 B・C 民法 I						

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
西台　満	政策科学	3-328、889-2659

オフィスアワー　曜日及び時間： 火、　4：10～5：40　　**場所：** 西台研究室（3-328）

授業の目的及び到達目標

１．目的

先ず一般教育（General Education ＝本学では教養基礎と呼んでいる）の目的としては，生まれてから現在まで、親や学校の教師、本・新聞・テレビなどから沢山の知識・考えを受け取り、頭に keep しているわけだが、大学に入ったのをいいきっかけにして、それらを一旦全部 clear する。それから、自分が正しいと納得できるものだけを一つづつ、もう一回頭に収納してゆく。この作業を「自我の確立」と言う。

２．到達目標

自我を確立するためには、これまで「当然」「当たり前」と思って全然疑わなかったことでも、改めて「本当だろうか？」と疑うこと、即ち批判力が必要になってくる。本講では主に民法を題材として、多くの人が正しいと思っていることについて、「実はそうではないんだ」という例を示す。

カリキュラム上の位置付け

最も「一般教育らしい」科目である。これを受けた人と受けない人とでは、専門に入ってから大きな差が出てくると思われる。

授業の概要と進行予定及び進め方

1　高校までの「勉強」と、大学でする「学問」との違い

2　時代の流れ―工業化社会から情報化時代へ―

3　法的安定性と具体的妥当性

4　物権と債権

5　物権の排他性と公示制度

6　動産の公示―占有―

7　不動産の公示―登記―

8　債務不履行と不法行為

9　挙証責任

10　公害訴訟

11　証明と疎明

12　消費者金融

授業に関連するキーワード	債務不履行	不法行為	登記
公害	挙証責任	超過利息	証明

成績評価の方法及び合否判定基準

７月中旬の一回の試験で。
但し、出席の良し悪しを成績に加味するため、出席を取る。

教科書・参考書等

教科書として、
　西台満著『理論民法』高文堂出版社（2000 円）

授業科目名	和文：日本国憲法Ｂ －自分の憲法観が持てるように－ 英文：　The Constitution of Japan B					時　間　割	木 5-6
科目コード	501-0042	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1 期
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名	法律を考える A・B						

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
西台　満	政策科学	3-328、889-2659

オフィスアワー　曜日及び時間： 火、　4：10～5：40　　**場所：** 西台研究室（3-328）

授業の目的及び到達目標

１．目的
自分自身の憲法観を構築してもらうこと。学校で教科書を読んだり教師から聞いたり、テレビや新聞から得た知識は、どこまでも他人のものであって君のものではない。ひょっとしたら騙されているのかも知れない。そういうわけで、これまで皆さんの頭の中に詰め込まれてきた知識を一旦フォーマット（初期化＝パソコン用語で、新しいデータを書き込めるように、古いデータを全部消去すること）するような講義をするので、後は自分が正しいと思う考えを一つ一つ選択し、積み上げて行って欲しい。

２．到達目標
（１）憲法学界の多数説が中学・高校の教科書に取り入れられ、それが皆の頭に刷り込まれ、国民の常識のようになっている。そういう憲法観のどこがおかしいのか？　主要な問題を取り上げて、批判する。
（２）たとえ常識みたいに思われていることであっても、自分が納得できないなら納得できるまでとことん考える、という思考力・批判力を鍛える。

カリキュラム上の位置付け

マスコミや他人の考えに流されたりせず自分の考えで行動できる人、あるいは理科系なら発明・発見ができるような人、そういう人には批判的思考力が絶対に必要である。本講は、憲法を題材にして、そういう能力を引き出そうとする。

授業の概要と進行予定及び進め方

1. 学問とは何か
2. 憲法の名宛人
3. 基本的人権と「法律の留保」
4. 天皇制の意義と、国事行為に関する解釈
5. 自由と平等の関係
6. 「法の下の平等」の意義と法律制定の目的
7. 選挙と「法の下の平等」
8. 政教分離のあり方
9. 三権分立
10. 衆議院の解散
11. 地方自治を殺す憲法解釈

授業に関連するキーワード	民主主義	法律の留保	地方自治
衆議院の解散	法治主義	官僚主権	信教の自由

成績評価の方法及び合否判定基準

7 月中旬の一回の試験で評価する。
但し、出席の良し悪しを成績に加味するために、毎回出席を取る。

教科書・参考書等

参考書として、
『法学六法 ’09』信山社（1000 円）

授業科目名	和文： 日本国憲法Ｄ －自分の憲法観が持てるように－ 英文： The Constitution of Japan					時　間　割	火 3-4
科目コード	501-0044	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1 期
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名	特になし						
内容的に密接に関係する授業科目名	くらしと法－教養法学－，教養ゼミナール II －人権の現代的諸相－						

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
池村　好道	教育文化・地域科学	教文３－３３０・２６６１

オフィスアワー　曜日及び時間： 月曜日　18:00～19:00　**場所：** 教文３－３３０

授業の目的及び到達目標

１．目的
統治機構を中心とした日本国憲法の基礎的理解

２．到達目標
１）憲法上の基本的な諸概念を説明できる。
２）日本国憲法の基本構造を説明できる。
３）各種の憲法問題の基礎を的確に把握できる。

カリキュラム上の位置付け

本学の教育目標である「社会の変化に柔軟に適応できる幅広い教養」の涵養のための授業科目の一つ。
本授業科目は統治機構に主眼がおかれており，「人権の現代的諸相」の履修と合わせて，憲法の一層の理解が可能となる。
目的・主題別としては、「学問の体系」を重視する。

授業の概要と進行予定及び進め方

・憲法の理念と現実という問題を意識しながら，比較憲法的視点を加味して，統治機構を中心に日本国憲法の入門的解説を行う。
進行予定は以下の通り。
1～2 回．国民主権と天皇制：天皇の地位，天皇の行為
3～4 回．平和主義：９条の解釈
5～6 回．国会：両院制，参議院の存在理由など
7～8 回．内閣：議院内閣制など
9～10 回．裁判所：司法権の観念と帰属など
11 回．地方自治：「地方自治の本旨」など
12～14 回．基本権：種類，享有主体など
15 回．試験実施

・講義のなかで，憲法の条文をはじめ「六法」をしばしば参照する。
・教育文化学部学校教育課程以外の学生については，受講者の人数制限を行うことがある。

授業に関連するキーワード	憲法	統治機構	象徴
戦争の放棄	衆議院の解散	司法権の独立	外国人の人権

成績評価の方法及び合否判定基準

期末試験の結果による。尚、受講状況を加味する。

教科書・参考書等

教科書は使用しない。プリントを配付する。参考文献は適宜示す。
最も小型のものでよいから、事前に「六法」を用意しておくこと。

授業科目名	和文： 国際社会を考える －国際人の基礎知識－ 英文： A Grounding in the International Business					時　間　割	火 5-6
科目コード	501-0085	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1 期
受講対象学生	全学部 1～2 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
西台　満	政策科学	3-328、889-2659

オフィスアワー　曜日及び時間： 火、4：10～5：40　　**場所：** 西台研究室（3-328）

授業の目的及び到達目標

１．目的

国際化・グローバル化が進み、外国に出かけること及び日本国内における外国人との接触がこれからはますます増えると思われる。そういう状況に直面して、我々が条件反射的に考えることと言えば、外国語特に「英会話」の習得であろう。しかし、それは「容器」であって「中味」ではない。話す内容も無いのに、言葉を覚えて何になるのか？　なので、今のままではいくら英会話にお金を注ぎ込もうと、無駄金に終わるのが落ちである。本講は、英語でしゃべるための内容注入を目指している。

２．到達目標

先ず日本人であること及び日本の伝統・文化に誇りを持ち、その上で、外国にいいものがあればそれを学び吸収しようという姿勢の構築。

カリキュラム上の位置付け

授業の概要と進行予定及び進め方

I　宗教編

（1）神道
（2）仏教
（3）ユダヤ教
（4）キリスト教
（5）イスラム教

II　ビジネス編

（1）宗教とビジネス
（2）日本経済史
（3）国際経済
（4）外国為替

授業に関連するキーワード	聖書	神社	輪廻
通貨危機	プラザ合意	外国為替	ヘッジ・ファンド

成績評価の方法及び合否判定基準

七月中旬に行う試験が基本となるが、そこに出席を加味する。

教科書・参考書等

教科書は無し。
適宜、コピーを配る予定。

授業科目名	和文： 現代社会と経済ＩＡ －経済学入門－ 英文： Modern World and Economy IA:Introduction to Economics					時　間　割	木 3-4
科目コード	501-0103	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1 期
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名	特になし						
内容的に密接に関係する授業科目名	特になし						

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
島澤諭	教育文化学部	教文 3-326・2657

オフィスアワー　曜日及び時間： 木曜 12:00-13:00　　**場所：** 教文 3-326

授業の目的及び到達目標

１．目的
日常の経済現象の背後にあるメカニズムを理解する。

２．到達目標
経済学の基礎を身に付ける。
経済学を現実経済に応用できる。
経済現象を説明できる。

カリキュラム上の位置付け

経済学としての方法論についての講義を通じて、経済学的なものの見方を修得する。

授業の概要と進行予定及び進め方

この授業では、わが国では歴史的経緯から「近代経済学」と呼ばれているグローバルスタンダードな経済学を使ってさまざまな日常問題 (経済・社会・政治) を分析することで、高度に抽象化されている経済理論の概要を紹介します。

授業に関連するキーワード	ミクロ経済学	マクロ経済学	

成績評価の方法及び合否判定基準

期末に実施する試験により行う。追試験・再試験は実施しない。

教科書・参考書等

教科書は使用しない。

授業科目名	和文：現代社会と経済 II A －現代社会と経済学－ 英文：Modern World and Economy IIA:Contemporary Society and Economics					時間割	金 3-4
科目コード	501-0113	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1 期
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
小林　正雄	教育文化学部	教文 3-327・2658

オフィスアワー　曜日及び時間： 金　16:30～17:30　　**場所：** 教文 3-327（電話：889-2658）

授業の目的及び到達目標

１．目的
経済学（社会科学）の見方・考え方を知り，現代社会をトータルに見る眼を養う。

２．到達目標
やがて進んでいくそれぞれの専門分野（教育，経済・法などの社会領域，医療，技術等）について，どのような角度から見ればいいかを身につける。

カリキュラム上の位置付け

社会・歴史を科学的に考察するための科目の一つであるが，とくに地域科学・学校教育（社会教科）課程の学生は，専門教育（日本経済論・国際経済論など）の基礎として履修しておくことが望ましい。（「現代社会と経済学」は，同一授業内容ゆえ，A・Bのいずれかを選択し履修すること。）

授業の概要と進行予定及び進め方

１～２．経済学の面白さ－“発展段階論”とその意義－
３～４．“三段階論”（原理論・発展段階論・現実分析）考
５～８．純粋資本主義と原理論
　(1) 純粋資本主義とはなにか
　(2) 純粋資本主義と原理論（景気循環論）
９～13.“発展段階論”の論理
　(1) 資本主義の発展段階と構成要素
　(2)「２０世紀システム」考
　(3)「２１世紀システム」考
14～15. 現実分析：日本経済－ 20 世紀から 21 世紀へ－

授業に関連するキーワード	三段階論	原理論	発展段階論
現実分析			

成績評価の方法及び合否判定基準

試験あるいはレポートを中心に，出欠状況を加味して，総合的に評価する。

教科書・参考書等

使用の予定

授業科目名	和文：日本と諸外国の政治 II A －比較政治－ 英文：					時間割	金 3-4
科目コード	501-0173	必修・選択	選択	単位・時間数	2・	開設学期等	1 期
受講対象学生	全学部						
授業の形式	講義	備考	全学部 1～4 年				
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
中村裕	教育文化学部	教文 3-332,2604

オフィスアワー　曜日及び時間：　　**場所：**

授業の目的及び到達目標

１．目的
現在の日本とロシアの政治を比較することにより，民主主義，改革，政治そのものについて考察する方法論を修得する。

２．到達目標
1. 政治を比較する上での要因を挙げ，それらの具体的検討のための方法論を修得する。
2. 体制転換，改革とその結果の具体的諸相について理解する。
3. リーダーシップ，国民的合意，民主主義に関して，国の制度，歴史的環境に即して考察する能力を身につける。

カリキュラム上の位置付け

社会科学入門

授業の概要と進行予定及び進め方

1. 冷戦期の日本とソ連
2. 福祉国家体制と社会主義体制
3. 自由民主党一党優位体制とソ連共産党一党体制
4. 自由民主党の下での利益誘導型政治
5. ブレジネフ体制下でのソ連の安定と停滞
6. 中曽根政権の「戦後政治の総決算」
7. ペレストロイカの展開
8. 冷戦の終焉：日本とソ連－湾岸戦争を事例として
9. ソ連国家の崩壊
10. 自由民主党一党優位体制の崩壊
11. エリツィン政権下での市場原理の導入
12. 小泉政権下での新自由主義的改革
13. プーチン政権下での強硬路線
14. ポスト小泉の日本
15. 試験

授業に関連するキーワード	リーダーシップ	国民的人気	変動期
政権党	市場原理	大統領制	議院内閣制

成績評価の方法及び合否判定基準

基本的に試験。受験者の文章構成，論理展開，自分なりの考察で評価する。

教科書・参考書等

参考書
　中村裕『ロシアの議会と政治』，塩原俊彦『ロシアの「新興財閥」』，永綱憲悟『大統領プーチンとロシア政治』（いずれも東洋書店発行のユーラシア・ブックレット）
　竹中治堅『首相支配－日本政治の変貌』中公新書

授業科目名	和文： 社会と家族A －家族社会学の基礎－ 英文： Society and Family A:the Basis of Family Sociology					時　間　割	水 3-4
科目コード	501-0190	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1 期
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
石　沢　真　貴	政策科学	教文 3-331・2616

オフィスアワー　曜日及び時間： 火，水，木　　**場所：** 教文 3-331

授業の目的及び到達目標

１．目的
家族に関する諸問題を、家族とは何かを問いつつ考察することで、現代社会への関心を高める。

２．到達目標
家族に関する基礎知識を身につける。
社会集団としての家族の構造や機能を理解する。
家族をとりまく社会変化を理解する。
家族に関する社会制度を理解する。

カリキュラム上の位置付け

社会科学的な視角、考察力を養うための基礎的な科目
社会学、特に家族社会学的内容

授業の概要と進行予定及び進め方

授業の概要
　家族に関わる現代的諸問題について、家族とは何かを問いつつ考察する。
進行予定及び進め方
１　ガイダンス
２　家族の定義
３　家族に関する基礎的概念
４　家族と法
５　家族に関する法の近年の動向
６　近代社会と「近代家族」
７　世帯構造の変化でみる現代家族
８　世帯構造変化の要因
９　家族機能の変化と家族問題
１０社会制度としての結婚
１１結婚に関する近年の動向
１２離婚・再婚に関する近年の動向
１３夫婦関係と性別役割分業
１４女性と労働
１５現代家族のゆくえ

授業に関連するキーワード	家族	近代	社会学

成績評価の方法及び合否判定基準

・授業の最後にレポートもしくは記述試験により成績を評価し、原則として再試験や追試験は行わない。
・授業内のレポート等提出物を評価の際に考慮する場合もある。
・総合的な評価の結果が６０点未満の場合は不合格Ｄとする。

教科書・参考書等

・教科書は使用しない。
・必要に応じて参考文献を紹介したり、プリント資料を配布したりする。

授業科目名	和文： 大学生活と学習ＩＡ －キャリア形成入門－ 英文： Campus Life and Learning IA:an introduction to career formation					時　間　割	月
科目コード	501-0313	必修・選択	選択	単位・時間数	2・	開設学期等	集中講義
受講対象学生	全学部１・２年						
授業の形式	講義・演習・学生参加型	備考	担当教員の都合により、授業内容変更の可能性があります。				
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
遠藤敏明（世話人）	教育文化学部	教文 1-220,2558

オフィスアワー　曜日及び時間：　　**場所：** 教文 1-220

授業の目的及び到達目標

１．目的

キャリア形成おける第一歩として、社会では何が望まれているのかを知り、自分はいかにして社会に役立てるのかを考える。職業生活のイメージ作りを行い、自ら目標設定する能力を育成する。

２．到達目標

1. 社会に出て働く意味や職業について考え、自らの将来をイメージする。
2. さまざまな職業を考え、見つめることによって仕事をする世界、社会を取り巻く環境について理解する。
3. 将来の希望に到達するために必要な計画をたてる。

カリキュラム上の位置付け

キャリア形成は、就職という一時に終わらず、人生を通じて行われるものである。
その第一歩を踏み出す準備を、教員とともに体験的学習、演習形式で行う。

授業の概要と進行予定及び進め方

1. ガイダンス―キャリア形成って何？
　自分の意志で進路を決定するということ（主体的選択）。

2～3 社会が望むもの、自分の希望（分析）
　社会は大学卒業者に何を望むのか？自分は社会に出て、何をして役立つのか？
　・立場をかえて社会や職業を考える。自分が○○だったら？
　・社会への役立ちを自分のスタイルで考える（個性）。→自分が社会でどのように役立つかを「気づく」
　・自分の価値を見いだす、（なければ）つくる。

4～13 職業を知る、社会を知る。（職業生活のイメージづくり）
　・大学卒業後の進路、先輩たちの生き方。
　・ワーキング活動、仕事の研究、体験報告

14～15 目標設定（自分のマニフェストづくり）
　・大学での過ごし方、生活、アルバイト、授業の聞き方、単位の取り方を考えて、意味を深化させる。

授業に関連するキーワード	キャリア	職業生活観	主体性
自己分析	体験		

成績評価の方法及び合否判定基準

授業参加の積極度＋レポート

教科書・参考書等

授業科目名	和文： 大学生活と学習 II －大学教育・学習論－ 英文： Campus Life and Learning II:Teaching and Learning in University					時　間　割	水 9-10
科目コード	501-0321	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1 期
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義・学生参加型	備考					
履修する際に前提とする授業科目名	（特になし）						
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
細川　和仁	教育推進総合センター	般１－ 204，TEL3188

オフィスアワー　曜日及び時間： 水曜日 9・10 限　　**場所：** 教員室（般１－ 204）

授業の目的及び到達目標

１．目的
大学における教育・学習の特徴について，講義や学生同士の意見交換を通じて考察する。

２．到達目標
１）大学教育に関して最近になって浮上してきた課題など，大学教育研究の概略を説明できる。
２）大学教育の課題に対して自分の意見を持つ。あるいは新たなアイディアを提出することができる。
３）自分の考えをまとめ，他の受講者にわかりやすく説明するための工夫ができる。また，他の受講者の説明を聞くことができる。
４）他の受講者と意見交換を行い，意見を集約することができる。
５）自らの学歴意識や大学での学習に対する意識を，積極的に省察する。

カリキュラム上の位置付け

教養基礎教育の目標「(1) 高校教育から大学教育への円滑な導入・転換を図り、大学生としての学習方法の基本に習熟させる」と深く関わる科目。目的・主題別の目的のうち「学問の進展」に重きを置く。

授業の概要と進行予定及び進め方

1963 年の大学・短大への進学率は 15.4 %だった。今どのくらいになっているかご存知だろうか。
大学進学率の上昇は，高等教育がより多くの人々に開かれることを意味すると同時に，大学の役割の変化にもつながっていく。その変化とはどのようなものなのか，その変化に対して大学はどのように取り組んでいるのか。そして，秋田大学で学ぶという選択をしたあなたはどのような大学生活を送るのか。
大学を取り巻く現状について知るとともに，そこで学習する意味，意義についても積極的に省察（せいさつ）しよう。

各回の授業は，教員による講義と学生同士の意見交換を中心に進める。取り上げるテーマとキーワードは次の通り。
・ユニバーサル化する高等教育……進学率，大学「全入」時代，大衆化
・大学に進学する動機……学歴意識，不本意就学，満足度
・大学の入学者受入れ方針……アドミッション・ポリシー，「学士力」
・大学のカリキュラム……教養教育，専門教育，単位制，高校との接続
・大学の「学校化」と学生の「生徒化」……高校と大学，高校生と大学生，大人の学び
・大学の授業改善……授業評価，良い授業，悪い授業，ＦＤ，学習意欲
・大学授業のデザイン……シラバス，成績評価，到達目標
・大学教育・学習の課題……リポート
・大学改革の担い手……学習する環境づくり

授業に関連するキーワード	学習	大学教育	大学生
進学	授業評価	成績評価	カリキュラム

成績評価の方法及び合否判定基準

成績評価は 100 点を満点とし，次の３つの課題に配点する。
１）小リポート（20 点）
２）大リポート（50 点）……授業内容に関連するテーマについてのリポート。
３）リフレクション・ノート（30 点）……各回の授業終了時に記入し提出する。

参考までに，過去３年間の成績分布の平均は，Ａ：38 %，Ｂ：41 %，Ｃ：14 %，Ｄ：7 %（ただし，履修放棄は除く）。

教科書・参考書等

教科書……指定しない。ただし『教養基礎教育・学習ガイド』は頻繁に使用する。

参考書……関心のある人は読んでみてほしい。その他にも，授業中に紹介していく予定。
・武内　清編『キャンパスライフの今』玉川大学出版部，2003 年
・京都大学高等教育研究開発推進センター編『大学教育学』培風館，2003 年
・マーチン・トロウ（天野郁夫・喜多村和之訳）『高学歴社会の大学』東京大学出版会，1976 年
・内田　樹『「おじさん」的思考』，晶文社，2002 年
・内田　樹『街場の現代思想』，ＮＴＴ出版，2004 年
・片岡徳雄・喜多村和之編『大学授業の研究』，玉川大学出版会，1989 年
・苅谷剛彦『アメリカの大学・ニッポンの大学＊ＴＡ・シラバス・授業評価』，玉川大学出版部，1992 年

授業科目名	和文： 国際事情 英文： International Studies					時　間　割	火 3-4
科目コード	502-0085	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1 期
受講対象学生	全学部 1〜4 年						
授業の形式	講義	備考	17 年度以降入学者				
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
勝守 真	教育文化・国コミ	3-228・2648
三宅良美	教育文化・国コミ	3-246・2633

オフィスアワー　曜日及び時間： 水曜日 5:30-7:00　　**場所：** 3-246

授業の目的及び到達目標

１．目的
世界で起きている事柄についての固定されがちな価値観に新鮮な揺さぶりをかける。

２．到達目標
グローバリゼーション、トランスナショナル、ポストコロニアルといった用語を理解し、その具体的な事象について考えることができる。

カリキュラム上の位置付け

授業の概要と進行予定及び進め方

＜勝守＞ Sessions 1-7
世界はなぜ「国」に分かれているのか？　私たちはなぜ「国民」と呼ばれるのか?　あるいは、「私たち」とは何か？　この授業では、ナショナリズムやオリエンタリズム（西洋／東洋の図式）をめぐる思想・理論を取り上げ、とくに近現代の日本におけるナショナリズムとオリエンタリズムの関係を批判的に考察する。

＜三宅＞ Sessions 8-15
ジェンダー、レイシズム、ナショナリズム、および言語がどのように関連しあっているかについて、具体的な事象を踏まえながら考える。
1. Nationalism and Sexuality
2. Anti-semitism
3. Racism: a case study of the ”black body”
4. Cultural resistance
5. Gender, sexuality, and racism
6. The problems of children
7. Cultural resistance

授業に関連するキーワード	nationalism	言語帝国主義	racism
orientalism	gender		

成績評価の方法及び合否判定基準

テスト

教科書・参考書等

コースパック (ハンドアウト中心)

授業科目名	和文：社会と地域A －都市社会学の基礎－ 英文：Society and Community A:　Introduction to the Urban Sociology					時　間　割	火 3-4
科目コード	502-0120	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1 期
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名	（特になし）						
内容的に密接に関係する授業科目名	（「教養基礎教育」では特になし）						

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
和泉　浩	教育文化学部	018-889-2649
		e-mail: izumi@ed.akita-u.ac.jp

オフィスアワー　曜日及び時間： 火曜昼休みほか研究室在室時　　**場所：** 教育文化学部 3 号館 322

授業の目的及び到達目標

１．目的

現代における地域と社会の諸問題・諸事象を社会学的視点からとらるために、社会学の考え方、特に都市社会学の基本的な理論と今日の理論展開について学ぶ。

２．到達目標

1. 社会学とは、どのような学問なのか理解する。
2. 都市社会学のこれまでの基礎的な理論と理論潮流および「空間論的転回」以降の社会学と地理学の理論状況等を理解する。

カリキュラム上の位置付け

都市社会学、社会学一般の基礎となる授業で、特に他の授業の履修を前提にするものではありません。ただし、さまざまな理論を取りあげるので、抽象的で難しい内容も含みます。

授業の概要と進行予定及び進め方

授業予定（以下の各講での内容は、授業の進み具合などにより変更します）。

第 1 講　授業についての説明
第 2～3 講　社会学とはどのような学問か
第 4 講　社会学における「社会」
第 5 講　「地域」とは
第 5～6 講　地域社会、地域コミュニティの現状と問題
第 6～9 講　都市社会学の基礎と都市研究の理論潮流
　　（ウェーバー、ジンメル、シカゴ学派からミシェル・フーコーの都市論まで）
第 10～15 講　「空間論的転回」以降の社会学と地理学

授業に関連するキーワード	社会学	地域	社会理論
都市	空間論的転回		

成績評価の方法及び合否判定基準

授業に関連する内容についての小テスト（複数回の場合あり）とレポートで成績を評価します。
・小テスト（40 点）：授業内容について理解しているかの確認
・レポート（60 点）：授業の内容をふまえ、社会学の視点を理解し、自分の議論を展開できるかをみる課題を出します。
小テストおよびレポートの課題については授業内でのみ説明を行い、それ以外、掲示や、欠席した場合の個人的な問い合わせに対する説明などは行いません。授業を欠席する場合は、欠席届けを提出してください。
レポートは締め切り厳守で、締め切り日「時」をすぎたレポートは評価の対象外にします。またほぼ同一内容のレポートがあった場合、またネットや本の内容をそのまま写したと判明したレポートは、そのすべてのものを D にします。きちんとした引用の書き方をせずに、部分的であっても無断で著作、ネットの内容を引用したことがわかった場合も D にしますので注意してください。手書きのレポートは基本的に不可とします。レポートは英語でも可です。追試験・再試験は行いません。小テストを受けず、レポートだけ提出した場合は評価を D とします（成績の基準により、レポートが満点だとしても C のため）。

教科書・参考書等

教科書と参考文献（和書および英語の文献）は、授業の内容に関連するものを、そのつど各回の授業のなかで指示しますが、参考文献として、下記のようなものがあります。

加藤政洋・大城直樹編著，2006,『都市空間の地理学』ミネルヴァ書房.
若林幹夫，1995,『地図の想像力』講談社選書メチエ.
シヴェルブシュ，1982,『鉄道旅行の歴史』法政大学出版局.
ジンメル,『ジンメル・エッセー集』平凡社ライブラリー.
ウェーバー,『都市の類型学』創文社.
Giddens, Anthony, 2006, Sociology, 5th edition, Polity Press.　ほか

授業科目名	和文： 地理と地誌Ｉ－地誌学入門－ 英文： Regional Geography I:Introduction to Reginal Geography					時　間　割	金 3-4
科目コード	502-0141	必修・選択	選択	単位・時間数	2・	開設学期等	1 期
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義・実習	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名	自然地理学入門、自然地理学概論、人文地理学入門、人文地理学概論、地誌学概論						

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
篠原　秀一	教育文化・文化環境	教育文化 3-335・2663

オフィスアワー　曜日及び時間： 平日午後随時　　**場所：** 教育文化３号館３３５研究室

授業の目的及び到達目標

１．目的
１）地図、とくに地形図、あるいは地理写真、地誌に親しむ。
２）地誌および地誌学の基本を学ぶ。

２．到達目標
１）地誌の意味と役割を簡単ながら説明できる。
２）様々な地図から地誌的基本情報を解読できる。
３）様々な地理写真を簡単ながら説明できる。

カリキュラム上の位置付け

地誌学・人文地理学・自然地理学の地理学全般にかかわる導入授業の１つでもあり、「地誌学概論」へと続くものである。

授業の概要と進行予定及び進め方

　様々な地図と地理写真を題材として、地誌学の基本的な知識、地域のとらえ方を習得する。配布プリントと板書を中心とし、地図・地理写真・地誌の現物も回覧して講義する。作業学習および質疑応答の時間も含む。12 色鉛筆が必要となる。２万５千分の１地形図１枚（270 円）の購入を求めることもある。

１．多種多様な地図
　１）地図のある生活　　２）地図の定義と種類・分類　　３）近代的地図の整備と作成
２．地図の構成・内容と活用
　１）地図の構成　　２）地形図の図式　　３）地形図の活用と読図
３．地理写真と写真地誌
　１）地理写真とは　　２）地理写真を読む　　３）写真地誌

授業に関連するキーワード	地図	地形図	読図
地理写真	地誌		

成績評価の方法及び合否判定基準

授業中の質疑応答と出席状況をふまえ、筆記試験（60 %）、レポート（40 %）により総合的に評価する。
原則として３回以上の欠席を認めない。
総合的に評価して 100 点満点で 60 点以上を合格（「C」以上の評価）とする。

教科書・参考書等

教科書：「地形図の手引き（五訂版）」（日本地図センター）
参考書：「［続］やさしい風景学」（マルモ出版）
他の参考書は授業時に随時紹介する。

授業科目名	和文： 地理と地誌 II －自然地理学入門－ 英文： Regional Geography II: Introducing Physical Geography					時　間　割	火 3-4
科目コード	502-0161	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1 期
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名	「水文学 I 」,「水文学 II」						

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
林　武司	教育文化・文化環境	教育文化 3-333・2664

オフィスアワー　曜日及び時間： 火曜５・６時限　　**場所：** 教育文化　3-333

授業の目的及び到達目標

１．目的

私たちを取り巻く自然環境は，自然要因あるいは人間活動によって常に変動している．本授業では地球表層の様々な自然環境を概観し，それらの成り立ちや相互関係，人間活動との関わりについての基礎的な知識を習得することを目的とする．

２．到達目標

自然環境に関する基礎的な知識を学ぶことで，様々な環境問題の本質的な原因について客観的に考察する視点の基礎を持てるようにしたい．

カリキュラム上の位置付け

「水文学 I,II」と関連

授業の概要と進行予定及び進め方

自然地理学は，自然環境の成り立ちや変動のプロセス，人間活動との関わりを科学的に理解するための，総合的な学問領域である．本講義では，私たちの活動領域である地球表層を地圏，水圏，気圏の 3 つの領域に分け，それぞれの特性と相互関係について概観する．また，それらが人間活動によってどのように変化しているか，という視点から環境問題についても取り上げる．

進行予定（内容は一部変更する可能性があります）
1. 序論
　環境科学としての自然地理学の学問体系を理解する
　大学で自然地理学を学ぶことの意味を確認する
　メディアリテラシーの重要性について理解する
2. 地圏の環境
　私たちの生活する陸地を構成する地圏の特性について理解する
　地球の大きさと構造，地球の活動と災害（地震など），地形の成り立ちと輪廻，人間活動に伴う地圏の変化
3. 気圏の環境
　地球を薄く覆っている気圏の特性について理解する
　気圏の階層構造と大気循環，気候変動－自然要因と人為影響，大気汚染と酸性雨
4. 水圏の環境
　地球の自然環境を特徴づけている水圏の特性について理解する
　地球上の水の存在量と循環，水の物理的・化学的特性，地表の水，地下水，海洋
5. 地球環境問題
　地球規模で生じている環境問題と人間活動の関わりについて理解する
　資源・エネルギー問題，水問題，温暖化，砂漠化など
6. まとめ

授業に関連するキーワード	自然地理学	自然環境	人間活動
地球環境問題			

成績評価の方法及び合否判定基準

期末試験，レポートにより総合的に評価する

教科書・参考書等

授業中に適宜紹介する

授業科目名	和文： 秋田の自然と文化ＩＡ －秋田の食－ 英文： Nature and Culture in Akita IA:Dietary Habits in Akita					時　間　割	金 7-8
科目コード	502-0153	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1 期
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義・演習・学生参加型	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
長沼誠子	教育文化学部	教育文化学部１－２０３・２５３０

オフィスアワー　曜日及び時間： 月曜日９：００～１２：００　　**場所：** 教育文化学部１号館２０３室

授業の目的及び到達目標

１．目的
秋田大学に学ぶ学生として、秋田の食の特徴を知るとともに、地域における食嗜好・食文化の相違性とその要因について考える。

２．到達目標
１）食生活の構造、おいしさ評価と食嗜好形成のメカニズムを説明できる。
２）食の地域性とその要因について、事例（秋田の食、出身地の食）をあげて説明できる。
３）食に関する統計資料を分析し、その結果を発表できる。
４）官能評価法の目的・方法を理解し、評価の実施・集計・解析を行い、その結果を発表できる。
５）各地域の食文化に関する情報を収集してグループ討論を行い、その結果を発表し、クラス内で意見交換ができる。

カリキュラム上の位置付け

目的主題別科目【地域社会論】の授業科目として、私たちの身近な食生活について「地域と食文化」の視点から考える。主に「学問の進展」を目的としており、学生の発表・討論を通して、「地域と食文化」研究の萌芽を探ることをねらいとする。

授業の概要と進行予定及び進め方

１．ガイダンス：地域とは？　食文化とは？
２．食生活の構造（食行動分析）何のために食べるのか？
３．おいしさのメカニズム（官能評価・嗜好調査）おいしいと思う理由は？
４．食嗜好の形成要因（食歴調査）食べ物が嫌いになる理由・好きになる理由は？
５．米食の文化（官能評価）ご飯の好みに個人差や地域差はあるか？
６．米食の文化（資料分析）米食の国内比較・国際比較
７．米食の文化（グループ討論）秋田の米食は？　○○地域の米食は？
８．報告会：「地域と食文化を考える－米食文化を中心として」
９．秋田の食文化（資料分析）食材・調理加工法に地域差はあるか？
１０．秋田の食文化（資料分析）塩味・甘味の好みに地域差はあるか？
１１．秋田の食文化（官能評価）秋田の食の特徴は？
１２．行事と食（資料分析）行事食が継承される理由・継承されない理由は？
１３．地域と食文化（グループ討論）
１４．報告会：「地域と食文化を考える」
１５．期末試験

＊授業の内容に応じて評価・調査・集計・解析などを個別あるいはグループ別に実施し、毎時、評価用紙・課題用紙などを提出する。
＊集計作業・結果の解析、情報の収集などを授業時間外の課題にする場合がある。
＊学生への質問、討論は随時行う。
＊ PC プロジェクターは随時活用する。

授業に関連するキーワード	食生活	食文化	食嗜好
地域	秋田	米食	行事食

成績評価の方法及び合否判定基準

評価・課題用紙の内容および発表・討論参加状況 70 %
期末試験（資料等の持込有）30 %

教科書・参考書等

資料を配布する。
参考書：石川寛子『地域と食文化』放送大学教育振興会
近藤弘『日本人の味覚』中公新書
その他、授業時に紹介する。

授業科目名	和文： 秋田の自然と文化 III A －地域史を歩く－ 英文： Nature and Culture in Akita IIIA:Regional History in Edo Period					時間割	金 7-8
科目コード	502-0193	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	1 期前半
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義・実習・学生参加型	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
渡辺英夫	教育文化学部	教文 3-336・2667

オフィスアワー　曜日及び時間： 月～金　16 時以降　　**場所：** 研究室

授業の目的及び到達目標

１．目的
土地に刻まれた歴史を読み取る。

２．到達目標
城下町久保田 (秋田) でのフィールドワークに基づき、他の近世都市・城下町の成り立ちについても考察できるよう、その能力を養成する。

カリキュラム上の位置付け

日本近世史を専門的に研究していくための導入ではない。日本の歴史に関心を持つ一般の学生を対象にして、いま目の前に現存している街の姿から、その都市の歴史を考察していく能力を養い、地域の歴史により一層の関心を深めて貰いたい。

授業の概要と進行予定及び進め方

１．近世都市を考えることの意味

２．近世都市の構造　その１　戦国から平和へ

３．近世都市の構造　その２　城下町と街道

４．近世都市の構造　その３　城下町と水運

５．近世都市の構造　その４　城下町と身分

６～７．フィールドワーク

８．レポート提出　討論

授業に関連するキーワード	城下町	近世都市	地域の歴史
歴史の視点	フィールドワーク		

成績評価の方法及び合否判定基準

フィールドワークへの出席が絶対の前提条件です。その上で、学習態度・意欲 (10 %)、フィールドワーク (40 %)、レポート (25 %)、出席状況 (25 %) の割合で判定します。

教科書・参考書等

塩谷順耳他著『秋田県の歴史』山川出版社、2001 年、本体価格 1900 円

授業科目名	和文： 秋田の自然と文化 III B －地域史を歩く－ 英文： Nature and Culture in Akita IIIB:Regional History in Edo Period					時間割	金 7-8
科目コード	502-0194	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	1 期後半
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義・実習・学生参加型	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
渡辺英夫	教育文化学部	教文 336・2667

オフィスアワー　曜日及び時間： 月～金　16 時以降　　**場所：** 研究室

授業の目的及び到達目標

１．目的
土地に刻まれた歴史を読み取る。

２．到達目標
城下町久保田 (秋田) でのフィールドワークに基づき、他の近世都市・城下町の成り立ちについても考察できるよう、その能力を養成する。

カリキュラム上の位置付け

日本近世史を専門的に研究していくための導入ではない。日本の歴史に関心を持つ一般の学生を対象にして、いま目の前に現存している街の姿から、その都市の歴史を考察していく能力を養い、地域の歴史により一層の関心を深めて貰いたい。

授業の概要と進行予定及び進め方

１．近世都市を考えることの意味

２．近世都市の構造　その１　戦国から平和へ

３．近世都市の構造　その２　城下町と街道

４．近世都市の構造　その３　城下町と水運

５．近世都市の構造　その４　城下町と身分

６～７．フィールドワーク

８．レポート提出　討論

授業に関連するキーワード	城下町	近世都市	地域の歴史
歴史の視点	フィールドワーク		

成績評価の方法及び合否判定基準

フィールドワークへの出席が絶対の前提条件です。その上で、学習意欲・態度 (10 %)、フィールドワーク (40 %)、レポート (25 %)、出席状況 (25 %) の割合で判定します。

教科書・参考書等

塩谷順耳他著『秋田県の歴史』山川出版社、2001 年、本体価格 1900 円

授業科目名	和文：秋田の自然と文化 IV A －秋田の自然・資源・社会・文化－ 英文：Nature and Culture in Akita IVA:Nature, Mineral Resources, Society and Culture in Akita					時間割	木 7-8
科目コード	502-0233	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	1 期後半
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
水田 敏夫	地球資源	工資 G310・889-2380	石沢 真貴	政策科学	教文 3-322・889-2616
石山 大三	環境資源センター	工資セ 218・889-2447	妹尾 春樹	解剖学	医 ・884-6056
井上 正鉄	人間環境	教文 4-412・889-2588	清水 徹男	精神科学	医 ・884-6119

オフィスアワー　曜日及び時間： 木曜，16:00-17:00　　**場所：** 工資 G310・889-2380

授業の目的及び到達目標

１．目的

秋田大学で学ぶ大学生として，秋田の自然社会，文化等の背景と環境を知り，秋田の特色を学び，爾後の専門教育との位置づけと係わり，地域と連携について考えることを目的とする．

２．到達目標

1）限りある地下資源の基礎的知識を学習し，世界有数の秋田県の黒鉱鉱床資源を認識し，資源の生成機構を理解できる．
2）世界自然遺産地域に指定された白神山地の生態系を理解し，人間との共存の道を探ることができる．
3）秋田県民の生活の特徴を種々の統計資料から読み取ることができる．
4）シロクマと秋田に棲むクマとの比較し，解剖学からの問題点を考えることができる．
5）飲酒と文化，健康，法律との係わりについて学び，危険な飲酒習慣について認識を深めることができる．

カリキュラム上の位置付け

人間生活に深く関連する事柄に中で，秋田の資源や文化に密接に係わる問題を取り上げ，3 学部の教官がそれぞれの専門分野を生かした講義を行う（本年度の担当責任者は水田 敏夫）．

授業の概要と進行予定及び進め方

第 1 回（水田）：限りある地下資源について，エネルギー資源・金属資源の賦存状況，そして金属の濃集による鉱床の生成を概説する．秋田県北東部の北麓地域に分布する世界有数の黒鉱鉱床の地質と火山活動，鉱床探査技術，そして世界への貢献について紹介し，資源問題を考える．

第 2 回（井上）：秋田県内には十和田湖・八幡平国立公園をはじめとする多くの自然公園や世界自然遺産地域に指定された白神山地がある。これらはブナ自然林に広く覆われて多様な生物を育んでいる。秋田が誇る豊かな生態系を紹介して，人間との共存の道を探る。

第 3 回（井上）：世界遺産地代白神山地を紹介し，白神山地の保護・管理の在り方を探る．

第 4 回（水田・石山）：地学や地質の自然物を対象とする学習は，実際に野外における観察や実物に触れることが大切である．資源に関する講義の理解度をより高めるために，本学が世界に誇る鉱業博物館の展示物（鉱物，鉱石等）を見学・観察する（学生ボランティアも参加）．

第 5 回（石沢）：秋田の生活，秋田県民の生活の特徴を種々の統計資料から明らかにする．

第 6 回（妹尾）：解剖学からみた，シロクマと秋田に棲むクマとの比較．

第 7 回（清水）：「飲酒による光と影」秋田県は日本有数の米どころ酒どころであると共に，県民１人当たりのアルコール消費量においても全国のトップクラスにある．この講義では飲酒と文化，健康，法律との係わりについて解説すると共に，危険な飲酒習慣について学生諸君の認識を深めることを目的とする．

メッセージ：プリント，PC Projector，OHP を用いながら講義を進める．自然物を対象とする地学や生物学は，講義に加え，野外に出かけたり，本学の鉱業業博物館等で観察することが望ましい．

授業に関連するキーワード	秋田の地質とエネルギー資源	黒鉱鉱床と鉱業博物館	世界遺産と白神山地
秋田の自然	秋田の生活	自殺	酒の功罪

成績評価の方法及び合否判定基準

授業内容に関するレポート（50 %），簡単な小テスト（50 %）で評価する．

教科書・参考書等

特に使用しない．

授業科目名	和文： 秋田の自然と文化Ｖ －地域の生活史－ 英文： Nature and Culture in Akita V:Life Culture History of Regional Society					時　間　割	月 1-2
科目コード	502-0240	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1 期
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義・学生参加型	備考					
履修する際に前提とする授業科目名	（特になし）						
内容的に密接に関係する授業科目名	（特になし）						

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
渡部　育子	教育文化学部	教文 3-325・2615

オフィスアワー　曜日及び時間： 木 7・8　　**場所：** 教文 3-325 （要アポイントメント）

授業の目的及び到達目標

１．目的
地域を舞台に展開した人々の生活の歴史について、講義や文献・資料調査を通じて考察し、理解する。

２．到達目標
１）古代国家の秋田地域支配の特質について説明できる。
２）東アジア世界のなかでの秋田の位置づけについて説明できる。
３）古代秋田の人々の生活の実態について、秋田の自然とのかかわりにおいて説明でき　る。
４）秋田地域に関して、自分で興味を持てるテーマを発見する。

カリキュラム上の位置付け

本講義は目的・主題別科目のうち「地域社会論」分野を構成する。

授業の概要と進行予定及び進め方

【概要】
　古代国家（律令国家）による秋田支配と人々の生活、大陸から秋田にやって来た人々への処遇などを中心に、古代秋田をめぐる国家支配・交流・生活の諸相について考察する。
【進行予定及び進め方】
１：ガイダンス
２～４：律令国家の秋田支配（出羽国・秋田城）
５～７：大陸から秋田にやって来た人々（渤海）
８：小レポートの書き方・調べ方
９～１２：秋田地域の人々の生活・文化に関する調査・資料収集
１３：秋田の古代と現代
１４：期末レポートの書き方
１５：まとめ・レポート提出

授業に関連するキーワード	律令国家	出羽国	秋田城
渤海	蝦夷		

成績評価の方法及び合否判定基準

１）小レポート 40 点・・・自分で興味をもって調べた事に関するレポート・・・到　達目標（３）（４）
２）期末レポート 60 点・・・授業内容に関するレポート・・・到達目標（１）（２）

教科書・参考書等

授業中に紹介する。

授業科目名	和文： 地球の環境と資源ＩＡ －地球環境と化学元素－ 英文： Global Environment and Resources IA:Chemical elements and global environment					時　間　割	金 5-6
科目コード	503-0018	必修・選択	選択必修	単位・時間数	1・15	開設学期等	1 期前半
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名	特にありません。高校で理科総合 A を履修していれば、化学 I,II を履修していなくとも、学習によって理解できる内容です。						
内容的に密接に関係する授業科目名	「地球の環境と資源 IIB-地球環境と放射線」「地球の環境と資源 III-環境モニタリングと大気環境」						

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
岩田吉弘	教育文化学部自然環境講座	教文 3-218・2622

オフィスアワー　曜日及び時間： 木曜日、13 時から 14 時 30 分まで　　**場所：** 教文 3-218

授業の目的及び到達目標

１．目的
地球環境における化学元素の分布と生体内での機能についての理解

２．到達目標
１，元素の生成と地球環境での分布について理解し説明できる。
２，生体内での化学元素の存在量と機能について理解し説明できる。

カリキュラム上の位置付け

環境、化学、生命科学を専門とする学生には、地球化学、無機化学、生物無機化学の入門的な内容。それらを専門としない学生には、地球環境と化学の関わりについて教養を高める内容。

授業の概要と進行予定及び進め方

1，化学元素の定義と単位、記号
2，地球の構造
3，宇宙における元素の生成と存在量
4，地圏、大気圏での元素の存在量
5，水圏、特に海洋における元素の存在量と移動
6，生体における元素存在量
7，生体における化学元素の機能
8，まとめと最終の小試験

＊遅刻者は最前列への着席していただきます＊

授業に関連するキーワード	地球	大気圏	海洋
生体	化学元素	必須元素	有毒元素

成績評価の方法及び合否判定基準

授業 3 回目以降、毎回 10 分程度のマークシート形式の小試験を行います。
合否：小試験の成績が 60 %以上を合格とします。
履修放棄：出席日数が 2/3 に満たない者
成績不振者、無断欠席者に対するレポート提出や再試験等による救済措置は一切行いません。

教科書・参考書等

参考書・教科書は用いません。プリント、OHP を利用します。

授業科目名	和文： 地球の環境と資源 II －地球環境と放射線－ 英文： Global Environment and Resources II:Global environment and ionizing radiation					**時間割**	金 5-6
科目コード	503-0021	**必修・選択**	選択必修	**単位・時間数**	1・15	**開設学期等**	1 期後半
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	**備考**					
履修する際に前提とする授業科目名	特にありません。高校で理科総合 A を履修していれば、化学 I,II を履修していなくとも、学習によって理解できる内容です。						
内容的に密接に関係する授業科目名	「地球の環境と資源 IAB-地球環境と化学元素」「地球の環境と資源 III-環境モニタリングと大気環境」						

担当教員名	**所属**	**学内室番号・電話番号**
岩田吉弘	教育文化学部自然環境講座	教文 3-218・2622

オフィスアワー　曜日及び時間： 木曜日、13 時から 14 時 30 分まで　　**場所：** 教文 3-218

授業の目的及び到達目標

１．目的
放射線と放射線を正しく理解し、環境や人間生活との関わりについて説明できること。

２．到達目標
地球環境と放射線に関する以下の項目について理解し、説明できること。
放射線と放射能、環境放射能、放射線の人体への影響、放射線の産業での利用、放射線の医療での利用、原子力発電、核燃料サイクルと放射性廃棄物

カリキュラム上の位置付け

化学と資源を専門とする場合には放射化学、エネルギー工学を専門とする場合には原子力工学、生命科学を専門とする場合には放射線学の基礎となる。それらを専門としない学生には、放射線と環境、原子力に関する教養を高める内容。

授業の概要と進行予定及び進め方

1、放射線と放射能
2、環境放射線
3、放射線の人体への影響
4、放射線の産業での利用
5、放射線の医療での利用
6、原子力発電
7、核燃料サイクルと放射性廃棄物
8, まとめと最終の小試験

＊遅刻者は最前列への着席していただきます＊

授業に関連するキーワード	放射線	放射能	環境放射線
放射線影響	原子力発電	核燃料サイクル	放射性廃棄物

成績評価の方法及び合否判定基準

授業 2 回目以降、毎回 10 分程度のマークシート方式の小試験を行います。
合否：小試験の成績が 60 %以上を合格とします。
履修放棄：出席日数が 2/3 に満たない者
成績不振者、無断欠席者に対するレポート提出や再試験等による救済措置は一切行いません。

教科書・参考書等

参考書・教科書は用いません。プリント、OHP を利用します。

授業科目名	和文： 地球の環境と資源 IV A －地層の話－ 英文： Global Environment and Resources IV A:Introduction to Geological Sciences					時　間　割	水 9-10
科目コード	503-0123	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1 期
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
（責）佐　藤　時　幸	工学資源学部	工資 2-G212・2371

オフィスアワー　曜日及び時間： 木曜日，12：00～12：30　　**場所：** 工資 2-B304

授業の目的及び到達目標

１．目的

地層記録を素材として，地球科学的自然認識方法，ならびに地球上で生起する諸現象とその自然史的展開を学び，歴史性を背負った存在としての地球に関する認識を深めることを目的とする。

２．到達目標

１）地層が地球史のデータバンクであることを具体例にもとづいて説明できる。
２）地質学的自然認識方法を解説できる。
３）地球史が単なる漸進的変化ではなく，さまざまな事件で構成されていることを理解できる。
４）地震や火山噴火などの地学的事象の発生を支配している統一的過程について説明できる。
５）日本列島に自然災害が多発する原因の理解にもとづき，日常生活のあり方について考察できる。

カリキュラム上の位置付け

本講義は目的・主題別科目のうち，「自然環境と地球」を構成する。受講するにあたり，高校までの平均的知識のほか，特別な予備知識は前提しない。

授業の概要と進行予定及び進め方

詳細については、初回の講義で説明する。

【参考：昨年度授業概要】

基礎編
１. ガイダンス
２. 地層は時計である；地質学的認識の基礎
３. 古生物の進化と地質時代区分；地質時代区分は何を根拠にして行われているか
４. 年代を測る；地質時代の年数はどのようにして測定されているか
各論編
５. ワンダフルライフーカンブリア紀の爆発ー；高等動物大量出現の時，何が起こったか
６. 大量絶滅の謎；恐竜やアンモナイトはなぜ一斉に地球上から姿を消したのか
７. マグマのはたらき；火山噴火を起こすものの正体
８. 火山噴火のタイプ；火山噴火はどのように起こるのか
９. 地層の形成；地層のできかた
１０. 気候は変動する；地層記録によれば，地球上の気候は驚くほど大規模に変化する
１１. 地磁気は逆転を繰り返した
１２. 地層の変形と地殻変動
総括編
１３. 海洋底は拡大している；海洋底は大洋中央海嶺で形成され，水平方向に移動する
１４. プレートテクトニクス地球表層で進行している基本過程
１５. 日本列島はどういう所か；日本列島ではなぜ地震災害，火山災害が多いのか

授業に関連するキーワード	地質学	古生物（化石）	進化
マグマ	火山噴火	地球環境変遷	プレートテクトニクス

成績評価の方法及び合否判定基準

期末の試験結果で判定する。６０点以上を合格とする。

教科書・参考書等

教科書は使用しない。毎回の講義にプリントを配付するとともに参考書を紹介する。

授業科目名	和文： 地球の環境と資源ＶＡ －資源問題と地球環境－ 英文： Global Environment and Resources VA:Problems of Resources and Environment					時　間　割	月 3-4
科目コード	503-0163	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	1 期前半
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
佐藤　博	地球資源	工資 2-B214・2388	網田和宏	地球資源	工資 2-B212・2372
大友崇穂	地球資源	工資 2-B207・3054	杉本文男	地球資源	工資 2-B215・2394
村上英樹	環境資源学研究センター	工資 研-207・2446	今井忠男	地球資源	工資 2-B214・2388
山口伸次	地球資源	工資 2-B206・2387			

オフィスアワー　曜日及び時間： 随時　　**場所：** 上記教員室

授業の目的及び到達目標

１．目的
私たちが資源を入手し，それを利用するとき何が問題となるか，また資源の開発・消費が地球環境にどのような影響を与えるかを学習する。この問題は，私たちが社会の様々な分野で様々な形で活動するとき，常に何らかの形で関係してくるものであり，そのようなときにどう考えたらよいかを，この授業を通じて理解することを目標とする。

２．到達目標
1）資源と地球環境についての社会的な関心を持つこと。
2）資源と地球環境について様々な要因と異なる考え方があることを理解し，その解決手法について自らの意見を説明できること。

カリキュラム上の位置付け

社会的な問題である資源と地球環境についての教養とそれに対する自身の意見をもつこと。

授業の概要と進行予定及び進め方

第 1 回：　担当，佐藤
資源・エネルギー開発に伴って発生し，マスコミ等で取り上げられた環境問題を，新聞記事（和文，英文）に基づいて解説する。

第 2 回：　担当，網田
水資源の現状と水質汚染の問題について説明する。

第 3 回：担当，村上
原子力エネルギーの可能性と問題点について解説を行う。特に，エネルギー政策としての利点，環境への影響，廃棄物処理問題等を中心に説明する。

第 4 回：担当，山口
石油エネルギーの現状と地球温暖化対策について説明する。

第 5 回：担当，大友
資源から素材を作るまでの製錬プロセスについて解説する。

第 6 回：担当，杉本
金属資源の開発，輸入，閉山後の環境問題について説明する。

第 7 回：担当，今井
人はこれまで「どのようにして鉱物を道具として利用してきたか」,「どのようにして有用な鉱物を発見し開発してきたか」,「それらに伴う環境問題とは何であったのか」について，身近な材料や道具を例にとって考え，説明する。
また，レポート課題について説明する。

第 8 回：担当，杉本
　課題レポート提出日

なお，都合により上記の講義の順番を入れ替えることもある。

授業に関連するキーワード	資源の将来	資源リサイクル	資源開発の歴史
環境・経済倫理	エネルギー資源	大気 CO2 と地球温暖化	資源開発技術

成績評価の方法及び合否判定基準

授業への参加度および課題レポートを総合して評価する。

教科書・参考書等

授業科目名	和文： 天体観測入門 －太陽・月・惑星－ 英文： Introduction to Astronomical Observation:					時　間　割	水 7-8
科目コード	503-0050	必修・選択	選択	単位・時間数	1・	開設学期等	1 期前半
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	演習・実習	備考	たいへん不規則に行なわれる授業です。授業の概要と進行予定を良く読んでください。天体望遠鏡の台数が限られていること，安全管理の観点から受講生可能人数は 20 名程度となります。受講希望者多数の場合は，第 1 回目の授業時に抽選を行ないます。				
履修する際に前提とする授業科目名	なし						
内容的に密接に関係する授業科目名	なし						

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
林 信太郎	教文	3-311・889-2651

オフィスアワー　曜日及び時間： 木曜日　1-4 コマ　　**場所：** 教育文化学部 3-310

授業の目的及び到達目標

１．目的
天体に親しみ，惑星科学・宇宙科学の教養レベルの知識を身につける。宇宙空間のスケールの大きさを実感する。

２．到達目標
天体望遠鏡の仕組みについて理解し、天体望遠鏡を操作でき、人に説明できる。
簡単な望遠鏡を作成できる。
太陽の自転を理解し、説明できる。
主な惑星の特徴と軌道を理解し、説明できる.
月の形成史を理解し説明することができる。
宇宙の大きさを実感し説明することができる。

カリキュラム上の位置付け

授業の概要と進行予定及び進め方

天体の状況，天候の状況によって異なってくる．以下の内容と日程（暫定版）を予定している.
・天体望遠鏡の使い方（4 月）
・簡易天体望遠鏡の作成
・月の地形の観察（4 月 30 日ころおよび 6 月 29 日ころの夜；9 時頃解散；天気によって日程が変更される）
・水星・土星の観察（4 月の夕方 9 時ころ解散）
・木星の衛星に関する演習
・木星・金星の観察（ 6 月の明け方；朝 3 時集合）
・日食の観察（7 月 22 日）
・流星群の観察（4 月 22 日；晴れれば）
天体の運行状況や天候によって左右されるので，実習が予定通りに進むとは限りません。夜間の実験が多く，場合によってはアルバイト等に支障を生じる場合もある．天体及び天候の都合を優先し、学生のアルバイトの時間帯は考慮しない（できない）こととする。詳しい日程表は第 1 回の授業で資料を配布し説明する。
また，前期の前半だけでは実習が終わらず、9 月に行なわれる実習もある。
なお、授業の正規の時間帯で行う実習は 2 時間程度で時間のほとんどは夜間の観測とする。
受講上の注意：望遠鏡で太陽を見ないこと，また，屋上フェンスを越えないこと。
7 月末には新天体望遠鏡（45cm リッチー・クレチアン式望遠鏡）が導入される予定であり，その見学会も 8 月以降行う予定である。

授業に関連するキーワード	天体望遠鏡	月	太陽
惑星	黒点	火星	

成績評価の方法及び合否判定基準

レポートによる。
出席数が 2/3 に満たない場合は放棄とする。

教科書・参考書等

授業の中で紹介する

授業科目名	和文： 環境と社会A ー地域環境とインフラストラクチャーー 英文： Environment and Society A:Regional Environment and Infrastructure					時　間　割	木 7-8
科目コード	503-0183	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	1 期前半
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
木村 一裕	工学資源学部	総合研究棟 7F 教員室 2368	長谷部 薫	工学資源学部	工資 1-409 2358
石井 千万太郎	工学資源学部	総合研究棟 5F 教員ゼミ室 2361	徳重 英信	工学資源学部	工資 1-412 2367
浜岡 秀勝	工学資源学部	総合研究棟 7F 教員室 2974	及川 洋	工学資源学部	工資 1-415 2360
川上 洵	工学資源学部	工資 1-414 2366	高橋 智幸	工学資源学部	工資 1-420 2884

オフィスアワー　曜日及び時間： 講義終了時にアポイントを取って下さい。　**場所：** 各教員室

授業の目的及び到達目標

１．目的

われわれが日常生活を営んでいる都市や地域社会では、誰もが安全、安心、快適に生活でき、そして美しい空間の創出が望まれる。そのために 必要な諸施設を社会資本という。まず、はじめに社会資本について学び、ついでその整備理念と手法について学ぶ。その後に具体的な整備例に ついて履修する。

２．到達目標

1. 社会資本（インフラストラクチャー）とはどのように分類されるのか理解し、他に説明できるようにする。
2. 地域環境に及ぼす社会資本整備について理解し、他に説明できるようにする。
3. 社会資本整備理念を学び、ついで具体例として、鋼、コンクリート、木材による橋梁、地盤災害、水環境を取り上げ、理解できるようにし、他に説明できるようにする。

カリキュラム上の位置付け

日常生活に不可欠な社会資本整備について履修し、その整備手法について習得することを目的とする講義である。

授業の概要と進行予定及び進め方

第 1 回：社会基盤施設とは何か、その分類と整備理念について
第 2 回：持続可能な都市・地域について
第 3 回：環境に配慮した交通について
第 4～6 回：社会基盤整備の中での鋼・木・コンクリート材料について
第 7～8 回：地盤災害と水環境

授業に関連するキーワード	社会基盤	社会資本整備の理念	都市と交通
建設構造物	建設材料	地盤災害	水環境

成績評価の方法及び合否判定基準

レポート（30 %）、グループ学習の成果（60 %）、その他出席状況等（10 %）などを考慮して総合的に評価する。

教科書・参考書等

授業科目名	和文：欧米の歴史 英文：Introduction to European and American History					時間割	木 5-6
科目コード	504-0270	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1 期
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
佐藤　猛	教育文化学部・欧米文化	教 3 － 236・2666

オフィスアワー　曜日及び時間： 水曜 14：30～16：00　　**場所：** 研究室（3 － 236）

授業の目的及び到達目標

１．目的

われわれの社会を支える多くの要素が、欧米の歴史のなかで生み出されてきた価値観や制度に由来する。こうした欧米社会の歴史の１コマを学び、理解することを通じて、いま現在のわれわれの立ち位置を歴史のなかで探究し、判断していく、そのきっかけを得る。

２．到達目標

【テーマの理解】

ヨーロッパの歴史を動かしてきた基盤のひとつであるキリスト教会を題材に、それがどのように拡がり、時々の社会においていかなる役割を果たしたかを学び、主要な出来事や概念について説明できる。

【過去と現在の対話】

「政教分離」や「良心の自由」そして「国家」といった考え方が、ヨーロッパの長い歴史のなかで”作られたもの”であることを理解し、現在あたり前と思われているモノの見方や価値観を、いま一度捉えなおすことができる。

カリキュラム上の位置付け

１．

目的主題別科目「人間発達と文化」の授業として、人類社会とその文化の発達において欠くことのできない役割を果たしてきたヨーロッパないしアメリカの歴史の一側面を学ぶ。

２．

１を通じて、欧米の言語・文化・社会・歴史を深く学ぶうえでの基本的な知識や視点を身につける。

授業の概要と進行予定及び進め方

１. 授業の概要―キリスト教会とヨーロッパ中世社会―

キリスト教あるいは教会と聞いて、どのような考え方や出来事を思い浮かべるだろうか。古代ローマ帝国で生まれたキリスト教会は、その後たんなる「宗教」の域をこえて拡大し、長いあいだヨーロッパ社会のあらゆる側面を特色づけ、今日の欧米社会の土台を作った。本授業では、その出発点である中世ヨーロッパという時空を中心に、キリスト教あるいは教会がどのように広まり、時々の社会や権力のあり方そして人々の日常にとっていかなる役割を果たしたかを学ぶ。

２. 進行予定

１	授業の目的や概要などの解説
２～３	中世ヨーロッパ―いつから、いつまでか？―
４～５	「教会」＝「国家」―ゲルマン人はどのようにキリスト教徒を支配したか？―
６～７	人々の日常を刻んだキリスト教―中世人はどのように時を測ったか？―
８～１０	政教一致から政教区別へ―なぜ、皇帝と教皇は争いつづけたのか？―
１１～１２	街の景観を彩る教会―ロマネスクとゴシックはどう違うのか？―
１３～１４	結婚観でみる聖と俗―”神が与えし結合”か、”地位と財産”のための結婚か？―

３. 進め方

基本的に講義形式で進め、各回の問題提起と解説は板書、プリント配布、画像提示によって行う。ただし、テーマの区切りごとに出欠の確認をかねたアンケートをとり、その際、いくつかの事柄について授業内容をふまえて回答を求める。

授業に関連するキーワード	ローマ帝国	ゲルマン諸族	ローマ教皇
聖書	聖職叙任権闘争	聖と俗	ルネサンス

成績評価の方法及び合否判定基準

１. 授業最終回の試験（70 %）
２. アンケートの回答内容を加味した通常点（30 %）
↓
１＋２を点数化して、総合的に評価する

教科書・参考書等

特になし（毎回プリントを配布し、そのなかで参考図書にふれる）

授業科目名	和文： 心理学 I －心の科学史－ 英文： Psychology I:Introduction to Psychology					時　間　割	月 3-4
科目コード	504-0010	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1 期
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名	受講希望者が 150 名を越えた場合には、抽選によって受講生を選抜する。						
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
中野良樹	教育文化学部	教 5-402　2591

オフィスアワー　曜日及び時間： 金曜日　16:10～17:30　　**場所：** 研究室

授業の目的及び到達目標

１．目的

人間の心は知・情・意の機能が三位一体となることで成立するといわれる。本授業では、これら三つの機能について古典的な心理学の実験や理論を学び、それを踏まえて最近の脳科学などの知見に結びつけ、人間の心の有り様について理解、考察する。

２．到達目標

1) 認知、記憶、感情などの機能について心理学の基本的な知見、理論を説明できる。
2) 人間の心の仕組み、行動の原理について自分なりの考えを述べられる。

カリキュラム上の位置付け

認定心理士必修科目

授業の概要と進行予定及び進め方

１．心の科学への招待 ― ガイダンス

第１部　「知」の科学

２．視覚の冒険 ― 視知覚情報処理
３．人はいかにして世界を知るのか？ (1) ― 形の知覚
４．人はいかにして世界を知るのか？ (2) ― 主観的輪郭と遮蔽
５．人はいかにして世界を知るのか？ (3) ― 立体視
６．思い出をつくるメカニズム ― 短期記憶と長期記憶
７．「忘れる」ことの幸せと不幸せ ― 記憶と忘却と健忘
８．人間の知、機械の知―問題解決
９．人間の賢さと愚かさ― 思考と推論

第２部　「情と意」の科学

10. 人間と動物の心に境界はあるのか？ ― 条件づけの基本原理
11. 人間を人間たらしめる心―作業記憶から自己意識
12. 心の進化の行く先―自己意識から創造性へ
13. 「こころ」と「あたま」と「きもち」―感情と認知の協調と競合
14. 私たちは悲しいから泣くのか、泣くから悲しいのか？ ― 感情をめぐる議論

15. あなたたちは「こころ」を理解できたか？ ― 試験

授業に関連するキーワード	認知心理学	生理心理学	感情心理学
心と脳			

成績評価の方法及び合否判定基準

授業中に２回～４回の抜き打ちレポートを実施する。レポートでは授業の内容を理解した上で自分なりの考えを述べられるかを評価する（到達目標２）。レポートを実施した授業に欠席した受講生は、翌週の授業で担当教員からレポート用紙を受け取り、その翌週の授業で提出する。これ以外の方法での提出は認めない。欠席が事前に報告されていない場合は、評価は大幅に下がる。最終週の試験では授業で取り上げた心理学の知見や理論に関して基本的な説明を求める（到達目標１）。レポートの評価と試験の点数をそれぞれ 50 %とし、総点が 60 点以上の受講生に単位を認める。

教科書・参考書等

教科書　「グラフィック心理学」（サイエンス社）
参考書　「サブリミナル・マインド」　下條信輔著（中公新書）

授業科目名	和文： 教育学ＩＡ －現代社会と教育－ 英文： Pedagogy IA:Modern Society and Education					時　間　割	火 7-8
科目コード	504-0151	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	1 期前半
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
細川和仁	教育実践総合センター		佐藤修司	学校教育課程	教文５－ 509，2541
新井眞人	学校教育課程	教文５－ 505，2542	原　義彦（責）	学校教育課程	教文５－ 506，2545
浦野　弘	教育実践総合センター	教育実践総合センター，2698	紺野　祐	学校教育課程	教文５－ 507，2544

オフィスアワー　曜日及び時間：　　場所：

授業の目的及び到達目標

１．目的

学校教育にとどまることなく、生涯にわたる人間の発達をトータルに捉え、現代社会における教育のありようを、教育哲学、教育社会学、教育法学、社会教育学、教師学・教育技術学、教育工学等のさまざまな分野から分析を加える。

２．到達目標

教育の側面から人間存在の現代社会における位置と課題・展望についての認識を獲得し、それを通して自らの成長過程・学校体験を相対化し、自己の存在を未来に向けて開いていく契機とする。

カリキュラム上の位置付け

教育学関連科目の導入的位置にある。

授業の概要と進行予定及び進め方

１．教師学・教育技術学：（細川和仁）
２．教育と社会：教育は人間が社会で生きていくためには不可欠である。人間は教育により文化を習得し多様な社会的存在へと形成されていく。人間は教育により社会化されていくといってよい。ここでは教育社会学の立場から社会化のメカニズムに関する理解を深める。（新井眞人）
３．情報化社会におけるリテラシー：国は、2010 年に「ユビキタスネットワーク社会」の実現を目指し「u-Japan 政策」を展開しようとしています。このように社会の情報化が進展する中、ヒトの情報処理過程を手がかりにして、「学ぶ」ということの意味と、メディア・リテラシーについて考える。（浦野　弘）
４．教科書問題などを通じて国家と教育の関わりについて考察すると同時に、校則や体罰などの問題から学校と子供・親との関わりを学ぶ。（佐藤修司）
５．教育哲学：（紺野　祐）
６．わが国の社会情勢と生涯学習：構造改革が進展する中での生涯学習推進の現状と課題、および私たち一人ひとりの生涯学習のあり方について考える。（原　義彦）

授業に関連するキーワード	教師と教育技術	教育的抵抗	社会化と逸脱行為
コンピュータ・リテラシー	情報処理	生涯学習	

成績評価の方法及び合否判定基準

レポート、試験、出席等を総合して評価する。

教科書・参考書等

授業科目名	和文： 教育学 II A －地域社会と子育て支援－ 英文： Pedagogy IIA:Child care support in Local Community					時　間　割	木 3-4
科目コード	504-0156	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	1 期前半
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名	特になし						
内容的に密接に関係する授業科目名	特になし						

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
奥山順子	教育文化学部・発達教育講座	教文 5-308・889-2677

オフィスアワー　曜日及び時間： 水曜日５．６時限　　**場所：** 教文 5-308

授業の目的及び到達目標

１．目的
○　「子育て支援」を通して、子どもの発達や教育と、地域社会・ 家庭との関係やそれぞれが担う機能について考え、理解する。
○　これからの学校や幼児教育・保育施設の役割について考える。
○　子どもが育つ環境への関心を持つ。

２．到達目標
到達目標
○　保育・幼児教育にかかわる既存の施設や役割が、現代社会の中でどのような変化を求められているのかについて問題意識を持つ。
○　現代の教育・子育てをめぐる諸課題に関心を持つ。
○　幼児教育・保育と地域社会・家庭とのかかわりについて自らの課題をとらえて考察する。

カリキュラム上の位置付け

(2) 学問の体系

授業の概要と進行予定及び進め方

１．子育てと地域社会
　子育てと地域社会のかかわりを歴史的視点から考察する。地域社会の教育機能
２．家庭の変化と子どもの価値
　家族関係や家庭の機能の変化は、子どもの発達にどのような影響を及ぼしたか。家庭と学校（幼稚園・保育所）との関係
３．幼稚園・保育所の機能 (1)
　幼稚園とは・保育所とは。
　保育所や幼稚園は、何を期待され、どのような役割を担ってきたのか。
４．幼稚園・保育所の機能 (2)
　幼児教育をめぐる諸課題
５．幼児教育の独自性とは。
「子育て支援」とは？
　「子育て支援」の目的および実践の現状と課題について考える。
　誰が誰を支援する？
６．少子化・過疎化と子育て～秋田県の保育事情
　子育てをめぐる秋田県に特有の問題をとらえる。過疎地域の保育、新しい多世代家族の実情、幼保一元化、総合施設など
７．サービスと保育
　企業による保育、保育サービス事業、子育ての外注化などについて、“ ニーズに応じる保育 ” を、“ ニーズを育てる ” 観点から検討し、これからの地域社会における子育てのあり方、親の役割を考える。

授業に関連するキーワード	保育	地域	家庭
子育て支援	幼児教育		

成績評価の方法及び合否判定基準

・現在の保育・幼児教育の変化に関する問題意識　25%
・現代の教育・子育てをめぐる諸課題の理解　25%
・地域社会・家庭と保育とのかかわりに関する資料収集　25%
・自らの課題意識に基づいた考察　25%
＊小テスト、レポートによって評価する。

教科書・参考書等

参考書
参考図書
前田正子『子育ては、いま――変わる保育園、これからの子育て支援』2003 年、岩波書店
原田正文『子育て支援のＮＰＯ』2002 年、朱鷺書房
鯨岡峻『＜育てられる者＞から＜育てる者＞へ――関係発達の視点から』2002 年、ＮＨＫブックス

授業科目名	和文： 教育学 II B －地域社会と子育て支援－ 英文： Pedagogy IIB:Child care support in Local Community					時　間　割	木 3-4
科目コード	504-0157	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	1 期後半
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名	特になし						
内容的に密接に関係する授業科目名	特になし						

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
奥山順子	教育文化学部・発達教育講座	教文 5-308・889-2677

オフィスアワー　曜日及び時間： 水曜日５．６時限　　**場所：** 教文 5-308

授業の目的及び到達目標

１．目的
○　「子育て支援」を通して、子どもの発達や教育と、地域社会・ 家庭との関係やそれぞれが担う機能について考え、理解する。
○　これからの学校や幼児教育・保育施設の役割について考える。
○　子どもが育つ環境への関心を持つ。

２．到達目標
○　保育・幼児教育にかかわる既存の施設や役割が、現代社会の中でどのような変化を求められているのかについて問題意識を持つ。
○　現代の教育・子育てをめぐる諸課題に関心を持つ。
○　幼児教育・保育と地域社会・家庭とのかかわりについて自らの課題をとらえて考察する。

カリキュラム上の位置付け

(2) 学問の体系

授業の概要と進行予定及び進め方

１．子育てと地域社会
　子育てと地域社会のかかわりを歴史的視点から考察する。地域社会の教育機能
２．家庭の変化と子どもの価値
　家族関係や家庭の機能の変化は、子どもの発達にどのような影響を及ぼしたか。家庭と学校（幼稚園・保育所）との関係
３．幼稚園・保育所の機能 (1)
　幼稚園とは・保育所とは。
　保育所や幼稚園は、何を期待され、どのような役割を担ってきたのか。
４．幼稚園・保育所の機能 (2)
　幼児教育をめぐる諸課題
幼児教育の独自性とは。
５．「子育て支援」とは？
　「子育て支援」の目的および実践の現状と課題について考える。
　誰が誰を支援する？
６．少子化・過疎化と子育て～秋田県の保育事情
　子育てをめぐる秋田県に特有の問題をとらえる。過疎地域の保育、新しい多世代家族の実情、幼保一元化、総合施設など
７．サービスと保育
　企業による保育、保育サービス事業、子育ての外注化などについて、“ ニーズに応じる保育 ” を、“ ニーズを育てる ” 観点から検討し、これからの地域社会における子育てのあり方、親の役割を考える。

授業に関連するキーワード	育児	地域	家庭
子育て支援	幼児教育		

成績評価の方法及び合否判定基準

・現在の保育・幼児教育の変化に関する問題意識　25%
・現代の教育・子育てをめぐる諸課題の理解　25%
・地域社会・家庭と保育とのかかわりに関する資料収集　25%
・自らの課題意識に基づいた考察　25%
＊小テスト、レポートによって評価する。

教科書・参考書等

参考図書
前田正子『子育ては、いま――変わる保育園、これからの子育て支援』2003 年、岩波書店
原田正文『子育て支援のＮＰＯ』2002 年、朱鷺書房
鯨岡峻『＜育てられる者＞から＜育てる者＞へ――関係発達の視点から』2002 年、ＮＨＫブックス

授業科目名	和文： 表現と人間ＩＡ －対人・対話・対応－ 英文： Human Expressions IA:Human Relations					時　間　割	木 5-6
科目コード	504-0041	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1 期
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
佐々木久長	医学部	884-6506

オフィスアワー　曜日及び時間：　　**場所：**

授業の目的及び到達目標

１．目的
人間関係に関する基礎的理論を学び、より良い人間関係が展開出来るようになる
人間関係がうまくいかない人に適切な支援ができるようになる

２．到達目標
１．人間関係の主体者としての自己理解を深める
２．対人コミュニケーションの構造を理解する
３．実際の対人関係の背景にある心理を理解する
４．傾聴について理解し実践を試みる

カリキュラム上の位置付け

ペアワークによる実践的・体験的な内容を含む

授業の概要と進行予定及び進め方

１．人間関係の主体者としての自己
２．人間の存在性について
３．コミュニケーションについて
４．傾聴について（１）
５．傾聴について（２）
６．人間関係における受容と拒否
７．人間関係における援助と攻撃
８．人間関係における依存と自立
９．家族という関係
１０．恋愛・愛情・友情について
１２．個人と集団の関係
１３．対人関係の健康と病理
１４．テスト
１５．全体のまとめ

授業に関連するキーワード	自己理解	他者認知	コミュニケーション
傾聴			

成績評価の方法及び合否判定基準

定期試験（８０％）＋出席（２０％）

教科書・参考書等

参考書　1) 吉森護編著　人間関係の心理学ハンディブック　北大路書房
　　2) 対人行動学研究会編　対人行動学ガイド・マップ　ブレーン出版

授業科目名	和文： 文学論Ａ －教養読書基礎講義－ 英文： Lecture on Literature A:Lecture on liberal reading					時　間　割	金 3-4
科目コード	504-0061	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1 期
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名	特になし						
内容的に密接に関係する授業科目名	特になし						

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
成田　　雅樹	教育文化学部	教３－１３９・２５３１

オフィスアワー　曜日及び時間： 曜日及び時間：月火木金曜日　12:50～16:00　**場所：** 教育文化学部　３－１３９（電話：８８９－２５３１）

授業の目的及び到達目標

１．目的
（１）　映像化された作品と原作の文章表現との比較によって，文学作品をストーリーやプロット、レトリックの面から分析する方法を学習し、文学の本質について考察する。
（２）　文学作品を作者の生き方と比較して分析する方法を学習することを通して、文学の本質について考察する。

２．到達目標
（１）　原作の文章表現及び映像化された作品の構造を分析し、文学作品の様々な「しかけ」を理解することができる。
（２）　原作と映像化された作品との比較を通して、文学的表現の本質について論ずることができる。
（３）　一般的な近代文学作品と児童文学作品の構造及び表現上の違いについて論ずることができる。

カリキュラム上の位置付け

目的主題別としては「学問の方法」を主とする科目。また、教養基礎教育の目標（１）と深く関わって、文学作品を様々な方法で分析することを通して、文学を通して人間や文化を考察していく契機とするものであり、発表、討論及び論文作成の基礎力を養おうとするものである。

授業の概要と進行予定及び進め方

１ (4/10) 回…オリエンテーション（本授業の特色・進め方解説、批評理論の概説、ミニレポート「私にとっての文学」）
２ (4/17)～４ (5/1) 回…明治期の文学として、夏目漱石の作品とその映像の比較検討、及び作者夏目漱石と作品の関わりについて考察する。「それから」を扱う。ミニレポート（映像と原作の比較・作家の人生と作品の比較）
５ (5/8)～６ (5/15) 回…大正期の文学として、芥川龍之介の作品と作者芥川龍之介との関わりについて考察する。「トロッコ」「蜃気楼」を扱う。ミニレポート（作家の人生と作品との比較・長編と短編との比較・２作品の比較）
７ (5/22)～８ (5/29) 回…大正から昭和期の児童文学として、宮沢賢治の作品とその映像の比較検討、及び作者宮沢賢治と作品の関わりについて考察する。「注文の多い料理店」「セロ弾きのゴーシュ」を扱う。ミニレポート（映像と原作との比較・作家の人生と作品との比較・児童文学と成人向け作品との比較・２作品の比較）
９ (6/5) 回…昭和期の文学として、太宰治の作品と作者太宰治との関わりについて考察する。「人間失格」を扱う。ミニレポート（作家の人生と作品との比較・例えば「走れメロス」との比較）
10(6/12)～11(6/19) 回…昭和期の児童文学として、新美南吉の作品と作者新美南吉との関わりについて考察する。「ごんぎつね」を扱う。ミニレポート（以前の読後感との通時的比較・作家の人生と作品との比較）
12(6/26)～13(7/3) 回…現代的な文学作品として、よしもとばななの作品とその映像の比較検討、及び作者よしもとばななと作品の関わりについて考察する。「つぐみ」を扱う。ミニレポート（映像と原作との比較）
14(7/10) 回…現代の児童文学作品として、立松和平のいわゆる命シリーズの比較検討，及び作者立松和平と作品の関わりについて考察する。「山のいのち」「海のいのち」「街のいのち」を扱う。ミニレポート（重ね読みによる「いのち」の意味の考察・絵本作品と文庫本作品との比較）
15(7/17) 回…試験（レポート）

※　２～４回，７～８回，12～13 回はビデオを使用する。授業で扱う原作の中で、短編は授業時間内に読むこともある。ただし，２回目までに「それから」を，９回目までに「人間失格」を，12 回目までに「つぐみ」を読んでおくこと。また，各作家のその他の作品を随時読み，授業中の発表に備えることが望ましい。
※　ミニレポートは、各回の授業をふまえて、各回のシラバスにあるテーマで家庭学習した結果をまとめて翌週に提出する。

授業に関連するキーワード	同化と異化及び通時的比較と共時的比較	観想的態度	ストーリーとプロット及びアイロニーとリアリティ
解釈と物語スキーマ	視点及びシーンとサマリー	芸術的価値と内容的価値及び気分情調とアレゴリー	表層と深層及びメタファーとテーマ

成績評価の方法及び合否判定基準

出席率と発表や討論などの授業への参加状況と態度，及び授業中のノート・カード類とレポートの内容などを総合して評価する。出席と提出物の提出回数（作家ごとのミニレポート７枚等と試験レポート１枚）が 2/3 に満たない者は不可とする。この条件を満たしかつ授業で解説した内容を理解している場合：C、出席及び提出物の数がほぼ完全でかつ授業内容をふまえた自身の考察が到達目標に達している場合：B、Bの者で提出物の内容が到達目標に十分達していると認められる場合：A、Aの者で内容理解や考察が特に優れている場合：S。配点は概ね、授業中の取組３５点、提出物の内容３５点、試験レポートの内容３０点とする。追試・再試は行わない。

教科書・参考書等

「それから」「人間失格」「つぐみ」以外の授業中に読むテクスト（原作の文章）及び資料は印刷して配布するが、図書館で借りるか文庫本を書店で購入することを勧める。
また、作家の伝記的内容については、新潮社「文豪ナビ」シリーズが廉価で入門者向きである。

授業科目名	和文： 日本とアジアの文化 II －みんなの言語学－ 英文： Cultures in Japan and Asia II:					時　間　割	金 9-10
科目コード	504-0101	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1 期
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義・学生参加型	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名	日本文化基礎論 I ／ II 日本語学 日本語の諸相						

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
佐藤　稔	教文　日本・アジア文化	教文３－１３４・２６１３

オフィスアワー　曜日及び時間： 金曜日　昼休み　　**場所：** 教文　３－１３４

授業の目的及び到達目標

１．目的

言語と人間の関わりを軸にして、日本語文化の特性を認識する。
　特に、身のまわりの卑近な事例に基づいて、言語の運用・コミュニケーションの機微　について学ぶ。
言語使用によって人間関係の円滑な構築・修復が出来るためにはどんな技能が必要かを考える。

２．到達目標

（1）日本語文化が過去から継承してきた遺産、現状、および未来について、個々人が　　所属する集団におけることばの具体的な事象から考察する。
「ことばにはそれぞれ　　通用範囲がある」という認識を確実なものとする。
（2）ことばの規範に対する意識をもち、言語運用上の技能を高める。

カリキュラム上の位置付け

教養教育科目［目的・主題別科目］の「人間発達と文化」の１つとして設定。

授業の概要と進行予定及び進め方

１．みんなの言語学－総論－
　1.1　ヒトとしての進化－ことばをもつことの意味－
　1.2　「ことば」のはたらき－思考と通達－
　1.3　「母語」の役割－なぜ重要なのか－
２．方言（地域語）の衰退と復権
　2.1　年寄りと若者のことばの壁
　2.2　モノの消失とことばの消滅
　2.3　文化財？文化？？
　2.4　方言昔話を実演する
３．通用範囲の限られたことば　　（ジャルゴン）
　3.1　若者専用語・キャンパスことば・ギャル語－すぐに古びてしまうことば－
　3.2　隠語・業界語－どこで使用されるか－
　3.3　学術用語・専門語－どんな世界があるか－
４．差別とことば
　4.1　「差別語」は悪か？
　4.2　差別語を言い換える試み
　4.3　差別語を無くすことは可能か？
　4.4　ジェンダーとことば－「男」と「女」の現在（いま）－
５．「敬語」社会に生きる
　5.1　敬語が「正しく使える」とは？
　5.2　敬語の社会的機能
　5.3　敬語チェック－あなたの敬語はだいじょうぶ？－
　5.4　理想の敬語
６．日本語社会が抱える諸問題
　6.1　日常茶飯事化する異文化との接触
　6.2　通じないカタカナ語
　6.3　誰のための略語？
　6.4　「経済力」と言語学習意欲との関係
　6.5　マイノリティの言語状況
（以上、実施順序には変更があり得る）

授業に関連するキーワード	言語	母語	差別語
ジャルゴン	方言	敬語	言語文化

成績評価の方法及び合否判定基準

各回での発言、講義への出席状況、レポートによる。
　出席は１５回実施するもののうち３分の２を下回った場合、「放棄」と見なす。
　また、授業終了時に提出する出席調査票には、その日の授業に関する感想、質問等を　必ず記入すること。
　レポートは、手書きの場合は読みやすい文字で、丁寧に書いて提出すること。紙型は　Ａ４サイズ。プリンタで印字の場合の紙型も、Ａ４サイズ。
１頁当たり４０字×４０　行が望ましい。
　なお、本年はメールによるレポート提出は受け付けない。

教科書・参考書等

教科書：なし。
参考書：教室で必要に応じて紹介する。
　　出来るだけレジュメとなるプリントを配付する。

授業科目名	和文： 日本とアジアの文化Ｖ －東洋思想史－ 英文： Cultures in Japan and Asia V:History of Oriental Thougt					時　間　割	木 1-2
科目コード	504-0131	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1 期
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名	中国文化基礎論、中国文化論、中国史基礎論、アジア歴史文化論						

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
吉永　慎二郎	日本・アジア文化	３－１３０　２６０９

オフィスアワー　曜日及び時間： 木曜日　７～８時限　　**場所：** 教３－１３０（吉永研究室）

授業の目的及び到達目標

１．目的

中国文明の思想史的展開とそれに関連する東洋諸文明圏における思想史的テーマについての理解を深め、今日のアジア、世界を見る方法的視座と知見を得ることを目的とする。

２．到達目標

上記の思想史的テーマ及びそれに関連する知識や知見について理解し習得するとともに、今日のアジア、世界について自ら思考する糸口を把握する。

カリキュラム上の位置付け

総合基礎教育の教養科目であるとともに、中国文化論（思想史）への導入としての位置づけをも持つ。

授業の概要と進行予定及び進め方

一般的に考えられているほどに中国文明は他の影響と無関係に自足的に展開してきたわけではない。例えば、麦の生産・彩陶・青銅器・鉄器などの技術や知識はいずれも、西方から伝播している。また文字の伝播についても同様の指摘がなされている。高度技術の伝播はしばしば民族の移動と文明の融合と再生を伴う。歴史的にはそれは三つの大きな思想変革として把握しうる。一つは殷から周への王権交代（殷周革命）の際の天の思想の形成とその後の諸子百家の思想の展開と開花であり、二つは仏教思想の伝播による儒教的中華思想の相対化という衝撃とこれを受けての朱子学の形成であり、三つは西洋近代文明の衝撃と近代化（西洋文明の受容と近代国家の建設）への思想展開とである。本講義では、これらの思想史的テーマを西アジアや日本をも含めた東洋及びユーラシア的視圏から考察を加え概説する。

1．ユーラシアと中国文明
2．文字の伝播と漢字
3．殷文化と帝の思想 - その地下型他界観について -
4．天の思想と周王朝 - その天上型他界観について -
5．天と孔子の思想
6．天と墨家の思想
7．天と孟子の思想
8．老荘思想の道と帝
9．秦の始皇帝と黄老思想及び法家思想
10．儒教の国教化と易姓革命王朝
11．仏教の伝播と道教の形成
12．中国文明・仏教の伝播と日本古代国家
13．朱子学の形成と展開
14．中国文明と近代化
15．テスト

授業に関連するキーワード	文明と文化	地下型他界観と天上型他界観	帝と天と諸子百家の思想
封建制と家産官僚制	儒教の国教化と易姓革命王朝	仏教の伝播と朱子学の形成	近代化と現代化

成績評価の方法及び合否判定基準

評価：テスト及び平常点を総計して１００点満点とし、６０点以上を合格とする。テストは、その回答結果が授業内容の基本的理解と習得を示すものとなっているかどうか、また論理的に見解が記述されているかどうか、などが評価基準となる。

出席時数の取扱：「単位認定のきまり」による

教科書・参考書等

宮崎市定『中国文明史』上・下（岩波全書）、ヴォルフラム・エーバーハルト『中国文明史』（筑摩書房）、森三樹三郎『中国思想史』（レグルス文庫）、加地伸行『儒教とは何か』（中公新書）、吉永慎二郎『戦国思想史研究－儒家と墨家の思想史的交渉－』（朋友書店）、中村元『バウッダ・仏教』、山下龍二『朱子学と反朱子学』（研文社）、トーマス・ホッブズ『リヴァイアサン』（岩波文庫）、山内得立『ロゴスとレンマ』（筑摩書房）、ヘンリー・フランクフォート『古代オリエント文明の誕生』（岩波書店）、福永光司『道教と日本文化』（人文書院）など。その他随時教室にて指示。

授業科目名	和文： 芸術と文化 I －日本の音楽文化－ 英文： Art and Culture I : Japanese Music					時　間　割	水 9-10
科目コード	504-0187	必修・選択	選択	単位・時間数	2・15	開設学期等	1 期
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名	芸術と文化 II　―世界の音楽―						

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
武内　恵美子	音楽教育講座	2565

オフィスアワー　曜日及び時間： 水曜日　14：30～16:00　　**場所：** 教育文化学部 2 号館　206 号室

授業の目的及び到達目標

１．目的
日本の音楽の歴史を理解し、他国の音楽との相違を認識する。また音楽文化が社会に与える影響、果たす役割について理解する。

２．到達目標
日本人のアイデンティティーを持ち、日本の音楽について他者に説明し、議論できるようになる。

カリキュラム上の位置付け

幅広い教養としての日本文化ならびに音楽の知識を身に付け、音楽文化に対し偏りのない柔軟な姿勢と判断力を培う。

授業の概要と進行予定及び進め方

1.　ガイダンス、古代の音楽 1　　縄文～古墳時代の音楽文化、シルクロードの音楽
2.　古代の音楽 2　　雅楽・伎楽等
3.　古代の音楽 3　　声明
4.　中世の音楽 1　　舞の系譜　白拍子、曲舞、幸若舞
5.　中世の音楽 2　　能楽（猿楽）
6.　中世の音楽 3　　狂言
7.　中世の音楽 4　　田楽、平曲、風流、オラショ等
8.　近世の音楽 1　　歌舞伎
9.　近世の音楽 2　　文楽
10. 近世の音楽 3　　三味線音楽
11. 近世の音楽 4　　地歌箏曲、尺八等
12. 近代の音楽 1　　浪曲、唱歌、童謡
13. 近代の音楽 2　　浅草オペラ、宝塚歌劇団等
14. 現代の音楽　　歌謡曲
15. 試験

授業に関連するキーワード	日本音楽史	音楽	文化
日本文化			

成績評価の方法及び合否判定基準

1. 試験 70%、受講姿勢 30% により評価。
2. 全体の 1 ／ 3(5 回）以上欠席した場合は試験を受けても単位は認定しません。
3. 授業中の私語、携帯電話の操作は厳禁です。
4. 注意をしても受講態度を改めない場合は退室してもらいます。その場合の当日の出席はカウントしません。
5. 30 分以上遅刻の場合は欠席とみなします。
6. 出席が足りていても試験を受けない場合は単位は認定しません。
7. 試験には授業中に配布したプリント、ノート他資料等の持ち込みを可とします。
8. 事情により試験を受けられなかった場合、申し出れば再試験を行います。
9. 追試験は行いません。

教科書・参考書等

なし　　授業でプリントを配布。

授業科目名	和文：芸術と文化 III A －絵画にみる音楽と文学の照応－ 英文：Art and Culture IIIA:Common Themes in Arts					時間割	木 5-6
科目コード	504-0223	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1 期
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名	アジア美術表現論						

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
猪巻　明	美術教育	教文 1-315・2556

オフィスアワー　曜日及び時間： 木曜日 16:00～18:00　　**場所：** 教文 1-315

授業の目的及び到達目標

１．目的

芸術の融合（文学，絵画，音楽の照応）絵画と音楽の同一主題による芸術表現を追求する。

　ルネサンスから現代までの絵画芸術と音楽芸術（交響曲，交響詩，舞踏曲，歌劇，楽劇，歌曲，童謡，歌謡曲，邦楽，その他）を比較しながら，作品の時代背景と，画家と作曲家についての芸術における係わりを学ぶ。

２．到達目標

1) 近代の西洋音楽が文学（詩，小説，戯曲）と絵画の影響のもとに成立していることが理解できる。
2）西洋美術史の中で，イタリアルネッサンス（15 世紀），フランスロココ王朝時代（18 世紀），フランス象徴派・印象派（19 世紀），イギリスラファエル前派（19 世紀末），ベルギー象徴派・ウィーン分離派（19 世紀から 20 世紀初頭），フランス・ナビ派（19 世紀末から 20 世紀前半）のそれぞれの芸術運動と様式が理解できる。
3）日本の浮世絵がフランス印象派の画家を始め多くの西洋の画家に影響を与え，その上西洋の近代音楽にまで示唆していることを理解して，説明できる。
4）近代日本画の中には日本の歌（歌曲，童謡）や歌謡曲を反映した作品が多くみられ，この二つはいかに大衆文化と密着しているかを理解して，説明できる。
5）邦楽と浮世絵，近代日本画と浮世絵版画と邦楽との対照により，日本の江戸時代以来の音楽と絵画の係わりを理解して，説明できる。

カリキュラム上の位置付け

絵画と音楽の同一主題による様々な芸術表現の追求により、一般教養としての芸術の理解を手助けしようとしたものです。

授業の概要と進行予定及び進め方

ＣＤ，ビデオ等（音楽）拡大投影機，スライド，ビデオ等（絵画）による鑑賞を主として音楽と絵画の照応について学ぶ。
１　レスピーギ「交響詩ボッティチェッリの三枚の絵」（春，東方三博士の礼拝，ヴィーナスの誕生）
２　ドビュッシー「牧神の午後への前奏曲」　「交響詩 海」　ストラヴィンスキー「春の祭典」　ブーシェ「牧神とシューリンクス」
３　ラヴェル「タフニスとクロエ」　シャガールが描いたパリ，オペラ座の天井画。ダフニスとクロエを描いた画家達
４　ドビュッシー「選ばれた女」19 世紀末英国ラファエル前派作品と同一テーマの音楽
５　ドビュッシー「ペレアスとメリザンド」モーリス・ドニの「セザンヌ礼讃」に描かれたメーテルリンクと親交のあったナビ派の画家達
６　R．シュトラウス「サロメ」　モローの「雅歌」と矢代秋雄の「ピアノ協奏曲」ヨハネ伝に登場するサロメを描いたイタリアルネッサンス・フィレンツェ派の画家達
７　ドビュッシー「月の光」　フォーレ「月の光」　ラヴェル「草の上」　ホフマン「舟歌」　ラヴェル「夜のガスパール」　ヴァトー「シテール島への船出」
　　銅版画家ジャック・カロ作品と絵画と音楽
８　ラフマニノフ　交響詩「死の島」　ワーグナーとベックリン，ワーグナーの楽劇と絵画
９　マーラー「第 1 交響曲」クリムト三部作「哲学，医学，法学」とマーラーの第 8 交響曲
　　クリムトの「彫刻」のアレゴリーとマーラー第 5 交響曲と映画「ベニスに死す」
10　ヴィバルディ「四季」暦絵とブリューゲル作品　ジャン・フランソワ・ミレーの四季を描いた作品
11　プッチーニ　歌劇「蝶々夫人」小早川清「お蝶夫人」と「蝶々夫人」初演の舞台衣装デザイン画
12　團伊玖磨　歌劇「夕鶴」北沢映月「ある月の安英さん」と福田豊四郎の挿絵「夕鶴」
13　日本の歌と近代日本画作品　山田耕筰「この道」と山本丘人「残夢抄」　堂本印象「坂」　三浦文治「動物園行楽図」
14　歌謡曲と近代日本画作品　美空ひばり，石川さゆり，小林幸子，その他
15　邦楽の世界，鈴木春信「白鷺」と坂東玉三郎の舞踊「白鷺」，鏑木清方「道成寺」と坂東玉三郎の舞踊

授業に関連するキーワード	ルネッサンス	ディアギレフ	パンの会
ロセッティ	オフィーリア	柳沢　健	越後獅子

成績評価の方法及び合否判定基準

出席を前提とした，３回のレポート（全授業１５回の授業において３題の課題をレポートで提出する）の評価 100 %

教科書・参考書等

毎回の講義に用いるため作成したプリントを配布する。

授業科目名	和文： 哲学の世界 II －科学史・科学哲学－ 英文： Philosophy II: History and Philosophy of Science					時　間　割	月 1-2
科目コード	504-0393	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1 期
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
勝守　真	国際コミュニケーション	教文 3-228・2648

オフィスアワー　曜日及び時間： 水　１４：３０～１６：００　　**場所：** 研究室

授業の目的及び到達目標

１．目的

２．到達目標

「人が旅をするのは、到達するためではなく、旅をするためである」（ゲーテ）。

カリキュラム上の位置付け

授業の概要と進行予定及び進め方

雨はなぜ降るか？　「水蒸気が凝結して水滴（氷滴）が集まり、重力の作用で……」というのが、科学的に正しい説明だとされる。しかし、たとえば、「雨が降るのは、大地がうるおって草木が育つためだ」と答えてはいけないのだろうか？　近代以前の人々、たとえば古代ギリシャ人の多くは、そのように答えただろう。とすれば、近代科学的な自然の見かたは、いったいいつ、どのようにして成立したのか？　また、それは今日の世界をどのように形づくってきたのか？　この授業では、古代・中世の自然観と比較しながら、自然を「機械」のように数理的にとらえる近代科学の特質に注目する。さらに、近代科学の歩みを現在までたどり、とくに 20 世紀のアインシュタインやボーアの思想を取り上げて考察する。

授業では英語の文献も用いる。文系・理系を問わず、考えるのが好きな人を歓迎します。

授業に関連するキーワード			

成績評価の方法及び合否判定基準

試験（論述式）

教科書・参考書等

参考書として、ゴルデル『ソフィーの世界』（NHK 出版）、村上陽一郎『西欧近代科学』（新曜社）など

授業科目名	和文： 倫理と人間 －人間とは何か－ 英文： Human Ethics: What is Human Being?					時　間　割	木 5-6
科目コード	504-0265	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1 期
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名	特になし						
内容的に密接に関係する授業科目名	倫理学概論、西洋倫理思想史、比較倫理思想史、比較思想論						

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
立花　希一	教育文化学部	教文 3-127・2608

オフィスアワー　曜日及び時間： 火曜日７８限（その他、授業、会議以外随時）　**場所：** 研究室

授業の目的及び到達目標

１．目的
人間と人間社会に対する理解をめざす。

２．到達目標
人間や人間社会に対するアプローチや見解の多様性を知り、自己の人間観、社会観を形成する足掛かりをつかむ。

カリキュラム上の位置付け

民主主義社会においては個々人が自分なりの見識をもつことが求められるが、そうした市民たるに必要な教養教育科目である。

授業の概要と進行予定及び進め方

授業の内容は概ね以下の通りである。
１．ガイダンス（教養教育と専門教育）
２．定義（分類）について
３．存在とは
４．５．人間とは（１）機械としての人間
６．７．人間とは（２）生物としての人間
８．９．心の出現（創発）
１０．人間とは（３）理性的存在者としての人間
１１．人間とは（４）自然と人為
１２．人間とは（５）個人と社会
１３．人間とは（６）人間と教育
１４．テスト
１５．テスト返却（解説）

授業に関連するキーワード	人間	動物	自律
理性	自然と人為	社会	自己

成績評価の方法及び合否判定基準

９回以上の出席で、期末試験を受ける資格が生じる。９回未満は自動的に単位取得ができないので注意すること。成績評価は試験による。首尾一貫した思想を自分の言葉でどの位表現できるかが基準となる。

教科書・参考書等

教科書なし。プリントを用意する。参考文献は多数あるので、講義でプリントを渡す。

授業科目名	和文：障害と共生ＩＡ －福祉と人権－ 英文：Mainstreaming of People with Disabilities IA:Disabilities and co-existence					時　間　割	月 7-8
科目コード	505-0063	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	1 期後半
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
内海　淳	障害児教育	教文 4-511・2548

オフィスアワー　曜日及び時間： 月－金　12:00 － 12:50　　**場所：** 教文 4-511

授業の目的及び到達目標

１．目的
１）障害者及び障害者福祉の基礎的理解をする。
２）障害者の権利擁護の意義を理解する。

２．到達目標
１）障害者問題は身近な問題であることを説明できる。
２）ノーマライゼーションの意味を説明できる。
３）障害者福祉の特質と仕組みを説明できる。
４）人権侵害の背景と権利擁護の在り方を説明できる。
５）当事者活動の意義を説明できる。

カリキュラム上の位置付け

授業の概要と進行予定及び進め方

１．障害の概念と障害者の現状
２．障害者福祉の理念：ノーマライゼーション
３．障害者福祉施策の特質
４．障害者福祉の仕組みと現状
５．障害者への人権侵害
６．障害者の権利擁護
７．権利擁護としての当事者活動

授業に関連するキーワード	障害者	障害者福祉	ノーマライゼーション
人権侵害	権利擁護	当事者活動	

成績評価の方法及び合否判定基準

教科書・参考書等

授業科目名	和文： 人権と共生 II A －教育と人権－ 英文： Human Rights IIA:Education and Human Rights					時　間　割	火 7-8
科目コード	505-0103	必修・選択	選択	単位・時間数	1・7	開設学期等	1期後半
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考	教育に関わる著作、最低１冊を読了し、レポートを作成することが求められる。				
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
佐藤修司	教育文化学部	5-509・2541

オフィスアワー　曜日及び時間： 金曜日１６：００～１７：００　　**場所：** 教育文化学部５－５０９

授業の目的及び到達目標

１．目的
教育の場面を中心にしながら、人権を考える視点を学ぶ

２．到達目標
教育における、親、子ども、教師、住民、国家などの様々な主体間の権利・義務関係を理解し、具体的場面での人権問題への視点、対処方法などを習得する。授業を通じて、自らのこれまでを振り返り、これからを展望することで、「自分くずしと自分つくり」を考える視点を獲得する。

カリキュラム上の位置付け

教育文化学部の基礎科目である生涯学習論２・３や、専門科目である教育文化行政論などの基礎に位置付くとともに、全学部学生にとっての基本的、社会的な教養としても位置付く。

授業の概要と進行予定及び進め方

管理主義、能力主義といった教育の原理的問題と人権との関係を考察し、教育課程や生徒・生活指導などの教育実践における人権の問題を検討し、さらに、人権教育、平和教育の問題についても考える。
１．教育における管理主義：体罰をめぐって
２．教育における管理主義：校則をめぐって
３．教育における能力主義：受験競争をめぐって
４．教育における人権問題：いじめをめぐって
５．教育における人権問題：不登校をめぐって
６．教育における平和と戦争

授業に関連するキーワード	人権教育	平和教育	管理主義
能力主義			

成績評価の方法及び合否判定基準

出席態度（20 %）、履修表（20 %）、レポート（30 %）、最終試験（30 %）

教科書・参考書等

参考書：佐藤修司著『教育基本法の理念と課題』学文社
佐藤広美編『21 世紀の教育をひらく』緑陰書房
浪本・三上『「改正」教育基本法を考える』北樹出版

授業科目名	和文： 医学と健康ＩＡ －心臓と健康－ 英文： Medical Science and Health IA:Heart and Health					時　間　割	火 7-8
科目コード	505-0071	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	１期前半
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考	５月２６日のみ９・１０時限に講義を行います.				
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
尾野恭一	医学部	6069	西川俊昭	医学部	6172
増田弘毅	医学部	6062	長谷川仁志	医学部	6106
山本文雄	医学部	6133			

オフィスアワー　曜日及び時間：　　**場所：**

授業の目的及び到達目標

１．目的
心臓病を中心として、健康と医学について学ぶ

２．到達目標
(1) 心臓の構造と機能について理解する.
(2) 心臓病の病理について理解する.
(3) 心臓病の種類、原因、症状を理解する.
(4) 心臓病の治療に用いられる薬物について理解する.
(5) 心臓病の外科手術について理解する.
(6) 心臓病研究の技術について理解する.

カリキュラム上の位置付け

授業の概要と進行予定及び進め方

予定
４月１４日　心臓循環生理学　　（担当：尾野恭一）
４月２１日　心臓病理学　　（担当：増田弘毅）
４月２８日　現代社会と心臓病　（担当：長谷川仁志）
５月１２日　薬物による循環制御（担当：西川俊昭）
５月１９日　心臓循環薬理学　　（担当：尾野恭一）
５月２６日　心臓病の外科治療　（担当：山本文雄）
６月　２日　心臓病学研究技術　（担当：尾野恭一）
６月　９日　レポート提出

授業に関連するキーワード	心臓	血管	心臓病
健康			

成績評価の方法及び合否判定基準

出席状況（2/3 以上）とレポート（提出必須）による評価.

教科書・参考書等

指定しない

授業科目名	和文： 医学と健康 II A －子供の発達と健康－ 英文： Medical Science and Health IIA:Development and Health of childhood					時　間　割	火 5-6
科目コード	505-0083	必修・選択	選択	単位・時間数	1・7	開設学期等	1 期後半
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
小山田美香	医学部・小児科	884-6159	塚本宏明	秋田県教育庁特別支援教育課	860-5135
高橋志穂子	医学部・小児科（臨床心理士）	884-6159	小林寛幸	秋田県中央児童相談所	862-7311
渡部泰弘	医学部・小児科	884-6159	武田一幸	秋田家庭裁判所	824-3121

オフィスアワー　曜日及び時間：　　場所：

授業の目的及び到達目標

１．目的

1) 小児の正常な身体的・心理学的成長発達を理解する
2) 小児の成長発達を促すためにどんな事が必要なのかを理解する
3) 発達障害について理解する
4) 学校における特別支援教育について理解する
5) 少年非行の現状と対応について理解する
6) 児童虐待の現状と対応について理解する

２．到達目標

1) 小児の正常な身体的・心理学的成長発達過程について、基本的な知識を説明できる
2) 小児の成長発達を促す具体的な方法を説明できる
3) 自閉症スペクトラム・ADHD などの発達障害の概念と一般的対応について説明できる
4) 特別支援教育の概要について説明できる
5) 少年非行への対応について、基本的な知識を説明できる
6) 児童虐待への対応について、基本的な知識を説明できる

カリキュラム上の位置付け

子どもの発達について、医学・教育・福祉のさまざまな観点から理解する事を目的とする

授業の概要と進行予定及び進め方

こどもを取り巻く環境は近年大きく変化しており、健康という概念そのものも変化していると言っても過言ではない。医療においては感染症中心の対応から生活習慣病・心の問題への注目が大きくなっているし、教育においては社会の変化・多様化の中で学校教育に求められるものも変わってきており、スクールカウンセラー制度や特別支援教育など新たな取り組みが行われてきている。そうした心理・社会的な状況までを踏まえた「こどもの発達」を理解するために、以下のコースを開講する。

1 期 6/16、2 期 12/8　　小山田美香（医学部・小児科）：こどもの発達（1）医学的な成長発達
1 期 6/23、2 期 12/15　高橋志穂子（医学部・小児科臨床心理士）：こどもの発達（2）心理学的な成長発達
1 期 6/23、2 期 12/22　渡部泰弘（医学部・小児科）：発達障害の理解と対応（1）
1 期 7/7、2 期 1/12　　渡部泰弘（医学部・小児科）：発達障害の理解と対応（2）
1 期 7/14、2 期 1/19　塚本宏明（県教育庁特別支援教育課）：特別支援教育の現状と取り組み
1 期 7/21、2 期 1/26　小林寛幸（中央児童相談所・児童心理司）：児童虐待の現状と取り組み
1 期 7/28、2 期 2/2　　武田一幸（秋田家庭裁判所・主任調査官）：少年非行の現状と取り組み

授業に関連するキーワード	発達	小児	発達障害
特別支援教育	非行	児童虐待	

成績評価の方法及び合否判定基準

■ 出席は 7 回のうち 5 回以上を要する
■ 7 回の講義のうち、特に興味を持った講義 1 つについてレポートを提出すること。その内容は以下のようにする。
1 ; 講義内容に関する事柄で、
・ どんな事が分かったか
・ それに関して、現代の子どもが心理社会的により健康であるためには、今後どんな関わり・取り組みが必要と考えるか
を記載してください。
2 ; 一般の A4 レポート用紙で提出。「医学と健康 II　子どもの発達と健康　レポート」、学籍番号、氏名、「何月何日、何の講義について」と書いた上で、上記内容について記載して下さい。
3 ; 字数は規定しないが、少なくともレポート用紙 3 分の 2 ぐらいは書くこと。タイトルのみ別紙にする必要なし。
4 ; その気になればネットで探してコピー＆ペーストすれば体裁は出来てしまいますので、ワープロソフト不可。手書きで頑張ってください。
5 ; 〆切は、その講義の翌週火曜日とする。教育推進総合センター（教務係）まで提出。

教科書・参考書等

授業科目名	和文： 医学と健康 III A －加齢と保健医療－ 英文： Medical Science and Health IIIA:aging and health care					時　間　割	木 3-4
科目コード	505-0091	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1 期
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
浅沼義博	医学部保健学科	C-102・6524
ほか看護学専攻教員		

オフィスアワー　曜日及び時間： 適宜担当教官と連絡　　**場所：** 適宜担当教官と連絡

授業の目的及び到達目標

１．目的
1）加齢に伴う身体的精神的変化を理解する。
2）高齢期における個人の生活の質的向上と保健医療との関わりを理解する。

２．到達目標
1）加齢に応じた健康保持法，医療への関わり，医療側の対応が理解できる。
2）加齢と保健医療の現状を理解し，高齢者へのいたわりの心をもてる。
3）加齢と保健医療について，具体的に問題提起し考察することができる。

カリキュラム上の位置付け

加齢と保健医療を理解するための基礎科目である。

授業の概要と進行予定及び進め方

担当		講義の内容
1. 柳屋道子 ：地域・老年看護学講座	4/9/09	高齢社会における保健医療福祉の課題
2. 柳屋道子 ：地域・老年看護学講座	4/16	障害者と加齢
3. 百田芳春 ：基礎看護学講座	4/23	加齢と身体機能変化 (1)
4. 百田芳春 ：基礎看護学講座	5/7	加齢と身体機能変化 (2)
5. 百田芳春 ：基礎看護学講座	5/14	加齢と身体機能変化 (3)
6. 鈴木圭子 ：地域・老年看護学講座	5/21	高齢者の心のケア (1)
7. 鈴木圭子 ：地域・老年看護学講座	5/28	高齢者の心のケア (2)
8. 水沼秀夫 ：基礎看護学講座	6/4	加齢と栄養 (1)
9. 水沼秀夫 ：基礎看護学講座	6/11	加齢と栄養 (2)
10. 水沼秀夫：基礎看護学講座	6/18	加齢と栄養 (3)
11. 煙山晶子：地域・老年看護学講座	6/25	高齢者ケア (1)
12. 煙山晶子：地域・老年看護学講座	7/2	高齢者ケア (2)
13. 浅沼義博：臨床看護学講座	7/9	加齢と手術
14. 兒玉英也：母子看護学講座	7/16	中・高年女性の健康問題
15. テスト	7/23	記述式テスト

授業に関連するキーワード	加齢	保健医療	健康
ケア	栄養	障害	身体機能変化

成績評価の方法及び合否判定基準

講義出席状況 (2/3 以上）を満たした上で，学習意欲・態度（10 %），テスト（90 %）

教科書・参考書等

特に，指定しない.

授業科目名	和文： 医学と健康Ｖ －障害と保健医療－ 英文： Medical Science and Health V:disability and health care					時　間　割	月 7-8
科目コード	505-0140	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1 期
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
工藤　俊輔	保健学科	C-305・6527
ほか保健学科教員		

オフィスアワー　曜日及び時間： 月曜日　午後 17 時～18 時　　**場所：**

授業の目的及び到達目標

１．目的
１）人間の生活機能と障害について理解する。
２）身体的・精神的障害のある人への援助のあり方を理解する。

２．到達目標
１）人の生活機能とその障害について説明できる。
２）人を取り巻く環境因子（制度・用具・態度など）について説明できる。
３）人を援助するための対人技能や環境整備について説明できる。

カリキュラム上の位置付け

この科目は障害を理解しようとする学生一般に向けた基礎科目である。

授業の概要と進行予定及び進め方

第　１回　４／１３　　担当：進藤伸一　　「障害とは何か－国際生活機能分類の考え方」
第　２回　４／２０　　担当：佐々木 誠　　「身体障害分類と分類別の障害の様相」
第　３回　４／２７　　担当：佐竹將宏　　「障害と医療技術」
第　４回　５／１１　　担当：工藤俊輔　　「障害者の自立支援と環境整備－バリアフリーと住宅改造－」
第　５回　５／１８　　担当：上村佐知子　「障害者に対するコミュニケーション技術」
第　６回　５／２５　　担当：大澤諭樹彦　「障害分野の国際協力」
第　７回　６／　１　　担当：塩谷隆信　　「病気と障害」
第　８回　６／　８　　担当：新山喜嗣　　「こころの障害と保健医療」
第　９回　６／１５　　担当：石井奈知子　「こころの障害とリハビリテーション」
第１０回　６／２２　　担当：高橋恵一　　「発達障害に対するリハビリテーション」
第１１回　６／２９　　担当：津軽谷 恵　「障害と日常生活活動」
第１２回　７／　６　　担当：石川隆志　　「障害と作業活動」
第１３回　７／１３　　担当：湯浅孝男　　「障害の語りと理解」
第１４回　７／２７　　担当：大友和夫　　「神経系と障害」
第１５回　８／　３　　試験

授業に関連するキーワード	障害	リハビリテーション	保健医療

成績評価の方法及び合否判定基準

提出物・試験

教科書・参考書等

特に使用しない。資料を随時配布する。

授業科目名	和文： 生命と健康ＩＡ －現代日本に見られる生活習慣病－ 英文： Life and Health IA:Lifestyle-related diseases in Japanese					時　間　割	火 9-10
科目コード	505-0241	必修・選択	選択	単位・時間数	1・16	開設学期等	1 期前半
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名	特になし						
内容的に密接に関係する授業科目名	特になし						

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
清水徹男	医学部精神科学分野	884-6122	大西洋英	医学部消化器内科分野	884-6099
福田雅幸	附属病院口腔外科	884-6188	増田　豊	附属病院心療センター	884-6389
吉冨健志	医学部眼科学分野	884-6167	島田洋一	医学部整形外科学分野	884-6144
金子善博	医学部健康増進医学分野	884-6088			

オフィスアワー　曜日及び時間：　　**場所：**

授業の目的及び到達目標

１．目的

現代日本人に見られる慢性疾患の多くは生活習慣がその発症や進展に大きく関わっていることから生活習慣病とも呼ばれている。この講義の目的は、健康の保持・増進を図るために重要なライフスタイルと健康についての基礎的な知識を習得し、自らが健康的な生活習慣を身につけるとともに、その知識を卒業後の職業生活のなかで活用することができるようにすることである。

２．到達目標

1) 生活習慣病の概念を説明できる。
2) 食事、睡眠、スポーツ、嗜好品、ストレスなどが健康に与える影響について説明できる。
3) 口腔ケアー、視力維持の重要性を説明できる。
4) 自らのライフスタイルの問題点を生活習慣病の観点から考察できる。

カリキュラム上の位置付け

現代社会のあり方と健康との関係に興味を持つすべての学生を対象とする。予備知識は必要としない。
秋田高校の生徒にも公開される。

授業の概要と進行予定及び進め方

4 月 14 日　副題：現代社会と睡眠　担当　清水徹男（精神科）
　現代人は睡眠を切りつめて生活している。その健康に与える影響は？諸君の睡眠・覚醒習慣について問いながら解説する。
4 月 21 日　副題：口腔ケア　担当　福田雅幸（口腔外科）
　口腔ケアと口腔領域感染症について。諸君の歯磨きは間違っている？
4 月 28 日　副題：失明原因第 1 位、糖尿病性網膜症　担当　吉冨健志（眼科）
　若い今から見直そう生活習慣病対策
5 月 12 日　副題：消化器の病気　担当　大西洋英（消化器）
　消化器疾患と生活習慣について概説する。
5 月 19 日　副題：疾病構造の変化と生活習慣病　担当　金子善博（健康増進）
　最近の日本の疾病要因としての生活習慣病の重要性を理解し、生活習慣病の考え方を学ぶ。
5 月 26 日　副題：現代生活と心身症　担当　増田　豊（心療センター）
　心身症の発生機序はストレスに対する適応障害であり、現代社会がストレスフルであることを理解してもらった上で、適応障害から心身症のメカニズムを説明したい。
6 月 2 日　副題：スポーツ傷害　担当　島田洋一（整形）
　近年のスポーツ熱に伴い、スポーツに関連した傷害の頻度も増加している。スポーツとの関連、頻度について概説し、予防に役立てたい。

授業に関連するキーワード	生活習慣	ライフスタイル	食事・睡眠・スポーツ
ストレス	口腔ケア	視力	疾病予防・健康増進

成績評価の方法及び合否判定基準

毎回のレポート提出、アンケート提出および出席状況を元に評価する。

教科書・参考書等

必要に応じて授業の際に関連図書を紹介する。

授業科目名	和文： 生命と健康 III －環境安全学－ 英文： Life and Health III:Environmental Safety - Sound Life in Our Society -					時　間　割	水 1-2
科目コード	505-0260	必修・選択	選択	単位・時間数	1・8	開設学期等	1 期前半
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名	特になし						
内容的に密接に関係する授業科目名	各学部の環境関連専門科目						

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
大谷規隆	元環境安全センター	工 4-322・2744	石井範子	医学部	医 B-205・6515
中田真一	工学資源学部	工 4-210・2437	岩田吉弘	教育文化学部	教 3-218・2622
林　滋生	工学資源学部	研究センター 307・2758	苗村育郎	保健管理センター	保所長室・2287

オフィスアワー　曜日及び時間： 各教員のオフィスアワー　**場所：** 各教員室

授業の目的及び到達目標

１．目的

科学技術の発達は人類に多大な利益を与える一方、様々な環境問題の発生や開発された製品や技術を使用する際の安全性のリスクが生じている。 今日、環境や安全に関わる問題を無視して健全で快適な社会生活・学園生活を営むことはできない。この講義では、環境と安全性に関する基礎的な知識を習得するとともに、勉学や研究過程でその知識を実践できる能力を養うことを目的とする。

２．到達目標

生活環境と安全、科学技術を利用する上での安全性の問題を理解でき、倫理観を備えた社会人、学生として必要な客観的事実の把握し、それに対処・実践することができる。

カリキュラム上の位置付け

専門課程での環境関係の講義を聴講するに必要な基礎知識と環境安全の基本的視点を提示する。

授業の概要と進行予定及び進め方

第１回（4 月 15 日）　「環境安全学と環境安全センターの役割」
学生が大学内で行う教育・研究活動が環境安全とどのように関わっており，それとともに環境安全センターの役割についても講義する。（担当予定：大谷規隆）
第２回（4 月 22 日）　「環境安全の考え方と環境マネジメント」
リスクとハザードの違いや環境評価、リスクコミュニケーション、環境マネジメントシステムなどについて身の回りの例を挙げて解説する。（担当：中田真一）
第３回（5 月 13 日）　「非化学系の実験室における環境・安全管理」
電気機器，工作機械を用いる実験室における，事故防止のための環境管理を講義する。（担当：林　滋生）
第４回（5 月 20 日）　「医療の職場におけるハザードと防護法」
職場環境に存在するハザードから医療従事者をいかに防護するか，抗癌剤の取り扱い方法や感染予防の方法を中心に講義する。（担当：石井範子）
第５回（5 月 27 日）　「実験室での化学物質の安全取扱い」
実験室の安全確保の概要と、化学物質の性質に対応した安全取扱いについて講義する。（担当：岩田吉弘）
第６回（6 月 3 日）　「環境汚染と健康への影響」
環境ホルモン，大気汚染，食品添加物等環境と安全に関わる講義を行う。（担当：苗村育郎）
第７回（6 月 10 日）　「環境安全センターの見学」
（担当：環境安全センター長、武藤　一）
第８回（6 月 17 日）　「環境安全センターの見学」
（担当：環境安全センター長、武藤　一）
第７回及び第８回は指定されたどちらかの回の見学会に参加する。

授業に関連するキーワード	環境安全センター	環境マネジメント	実験室での安全
バイオハザード	化学物質と安全	環境汚染	

成績評価の方法及び合否判定基準

各回に課した演習またはレポートの平均点で６０点以上を合格とする。

教科書・参考書等

教科書は特に指定しない。
参考書：玉浦裕、北爪智哉、辻正道、原科幸彦、日野出洋文、関口秀俊、環境安全科学入門、講談社サイエンティフィク（1999）、及川紀久雄、北野大、人間・環境・安全　―くらしの安全科学―、共立出版（2005）、高月紘編著、環境安全学、丸善（2006）及び各教員が推薦する参考書

授業科目名	和文： 教養ゼミナールＩ－生命科学への招待－ 英文： The World of Life Science					時　間　割	金 9-10
科目コード	506-0600	必修・選択	選択	単位・時間数	1・	開設学期等	1期前半
受講対象学生	1年次						
授業の形式	講義	備考	秋田カレッジプラザにて開講				
履修する際に前提とする授業科目名	特になし						
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
伊藤英晃	工学資源学部　生命化学科	VBL 教官室 3

オフィスアワー　曜日及び時間： 適宜対応　　**場所：** VBL 教官室 3

授業の目的及び到達目標

１．目的
生命科学の基礎を理解する

２．到達目標
生命科学の基礎反応を説明できる

カリキュラム上の位置付け

高大連携授業の一環として位置づける

授業の概要と進行予定及び進め方

１．ガイダンス
２．真核生物の細胞
３．遺伝子
４．転写
５．翻訳
６．タンパク質
７．生命科学の最新の話題
８．総括

授業に関連するキーワード	細胞	遺伝子	タンパク質

成績評価の方法及び合否判定基準

出席とレポートで総合的に判断する

教科書・参考書等

なし

授業科目名	和文： ライフサイエンス III A －動物たちの生殖戦略－ 英文： Life Science IIIA:Reproductive strategy of Animals					時　間　割	火 5-6
科目コード	506-0023	必修・選択	選択	単位・時間数	1・	開設学期等	1 期後半
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
河又邦彦	教育文化学部	4-312・889-2590

オフィスアワー　曜日及び時間：　　**場所：**

授業の目的及び到達目標

１．目的
生命を他と区別する最大の特徴は「増える」ことである。
生物の「増える」戦略を通して，生命を理解することを目的とする

２．到達目標
１）無性生殖と有性生殖について説明できる
２）雄と雌について説明できる
３）戦略により適応度が変化することを理解できる。

カリキュラム上の位置付け

教養教育

授業の概要と進行予定及び進め方

１）無性生殖と有性生殖
２）性とは：雄と雌
３）生物たちの奇妙な性
４）雄と雌はなぜ違う
５）オスの戦略
６）メスの戦略
７）ヒトの繁殖

授業に関連するキーワード	無性生殖	有性生殖	適応度
雄	雌		

成績評価の方法及び合否判定基準

課題，レポートにより判定する。３回以上休んだ場合は再履修となる。

教科書・参考書等

授業科目名	和文：生活の科学ＩＡ －衣生活の科学－ 英文：Family and Consumer Science IA:Clohing for Qualitical Life					時間割	火 7-8
科目コード	506-0083	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1 期
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
石黒純一	教育文化学部	教文 1-304・889-2551

オフィスアワー　曜日及び時間： 金曜日、15:00～17:00　　**場所：** 教文 1-304

授業の目的及び到達目標

１．目的
衣服の性能と着衣の目的を理解し、生活の場において適切な衣服の選択と着用ができるようになる。

２．到達目標
衣服の材料としての繊維・糸・布の関係を説明できる。
表現として衣服を着る場合のポイントを説明できる。
防御のために衣服を着る場合のポイントを説明できる。
現在の自分の着衣状態について説明と評価ができる。
他人の着衣状態について説明と評価ができる。

カリキュラム上の位置付け

現代と科学・技術の分野に配置されている科目であるが、「着る人」を前提にして我々の感性に密着した科学・技術を考えたい。

授業の概要と進行予定及び進め方

衣服に対する消費者の要求を次の８点にまとめ，それぞれについて，本講義の到達目標に則し，その要求内容，要求を満たすための衣服の性能とその実現状況について，それぞれ解説する。
（０）ガイダンス　我々の衣生活システム（一回）
（１）衣服の外観　　－衣服が表現するもの－（三回）
（２）衣服の着心地　－我々が衣服に求めるもの－（二回）
（３）取扱易さ　－繰り返し着用できる衣服－（二回）
（４）形態安定性　－古くなる衣服－（二回）
（５）環境形成　－衣服は我々の体の回りに微小環境を作る（二回）
（６）安全性　－製造物の安全性－（一回）
（７）経済性　－格安品から高級ブランド品まで－（一回）
（８）環境保全性　－循環型社会における衣服の使用－（一回）

授業に関連するキーワード	衣生活	アパレル	快適性

成績評価の方法及び合否判定基準

評価方法：定期試験 50%，講義に際し適宜行う小テスト（50%）。
判定基準：指定する内容が回答されているか。

教科書・参考書等

授業科目名	和文： 生活の科学 II A －栄養の分子生物学－ 英文： Family and Consumer Science IIA:Molecular Biology of Nutrition					時　間　割	木 5-6
科目コード	506-0313	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1 期
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
池本　敦	教育文化学部	教文 1-204・2553

オフィスアワー　曜日及び時間： 水　14:30-17:00　　**場所：** 教文 1-204（電話：889-2553）

授業の目的及び到達目標

１．目的

栄養素の生体内での役割や遺伝子との関係を分子レベルで理解することで、食生活と健康との関わりの基礎科学を学ぶ。

２．到達目標

1）栄養学の成り立ちとその生命科学における位置づけを理解する。
2）栄養素の機能を理解するための生化学と分子生物学の基礎を身につける。
3）代表的な栄養素の機能を分子レベルで説明できる。
4）食生活と生活習慣病との関わりや遺伝子組換え食品など、食の安全に関する最近の問題点を指摘・説明できる。

カリキュラム上の位置付け

食品成分や栄養素を題材として、生化学と分子生物学の要点を講義する。栄養学は生命科学の応用的領域であり、生物学や化学の知識を実生活に結びつけるような内容を取り扱う。高校の化学・生物の未履修者は本授業によって当該分野の内容に触れることができる。また、ヒトが生活していく上で必須な食の安全と健康に関する教養的題材を扱う。

授業の概要と進行予定及び進め方

原則として 1 回の授業でそれぞれ下記の項目 1 つを講義する。

1）ガイダンス：生命科学領域における栄養学の成り立ちと目的
2）総論：生体を構成する物質と細胞
3）総論：分子栄養学とヒトの遺伝子
4）グルコース代謝と糖尿病
5）タンパク質・アミノ酸と生体機能
6）必須脂肪酸バランスと病態、食用油脂と健康（1）
7）必須脂肪酸バランスと病態、食用油脂と健康（2）
8）コレステロール代謝と健康
9）抗酸化物質やビタミン C・E と活性酸素・フリーラジカル
10）β-カロチン・ビタミン A と視覚機能・遺伝子発現
11）ビタミン D・カルシウムと骨形成・細胞内情報伝達
12）必須無機元素の生体内機能
13）生活習慣病の遺伝子と栄養
14）肥満と遺伝子
15）遺伝子組換え食品

授業に関連するキーワード	栄養	食品	生化学
分子生物学	遺伝子	生活習慣病	

成績評価の方法及び合否判定基準

出席票による授業要約 30%、試験 50%、レポート 20% で評価する。ただし、出席率が 2/3 以上であることが単位取得の必須条件とする。詳細な評価基準は初回の授業で説明するが、出席は出席票を記入することによりとる。試験は出題範囲を分割して、複数回実施する。レポートは、最終講義の時に課題を提示する。

教科書・参考書等

教科書は使用しないが、通じページ番号の付いた資料を毎回の授業で配布し、教科書的に使用する。従って、授業で配付された資料は全て毎回持参すること。また、参考書は適宜紹介する。

授業科目名	和文：化学の世界A －最新の化学－ 英文：The Chemical World A					時間割	火 5-6
科目コード	506-0141	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	1期後半
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名	入門化学						

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
中田真一	環境応用化学科	工資 4-210・2437
後藤　猛	環境応用化学科	工資 4-101・2742
井上幸彦	環境応用化学科	工資 4-321・2746

オフィスアワー　曜日及び時間： 水曜日　11:00～13:00　**場所：** 工資 4-210（中田）

授業の目的及び到達目標

１．目的
現代社会で話題となっている科学技術について、科学的な考え方に触れる。その中で、「化学」が身近なところにあり、「ものづくり」が化学が基本になっていること、また環境問題を解決していくのも「化学力」であることを学ぶ。

２．到達目標
１）有機化学、高分子化学、無機化学、生化学、化学プロセスの話題を取り上げることができる。
２）化学的な考え方で身の回りの物質について説明できる。
３）「化学物質」の正しい管理や使用方法について、いくつか例示して説明できる。

カリキュラム上の位置付け

化学という学問への導入教育の一つであり、化学への興味を喚起するために開講する。

授業の概要と進行予定及び進め方

以下の内容に関して 3 名の教員が分担して講義する。なお、下記は「予定」であり、講師や順番が変更ある場合は適時連絡する。

1. オリエンテーション、「化学的」にとは？　”水の世界”について（中田）
2. 生体機能を利用した物質生産・変換プロセスの話題（後藤）
   (1) 酵素を利用した有機合成反応プロセス
3. 生体機能を利用した物質生産・変換プロセスの話題（後藤）
   (2) 微生物培養による抗生物質生産プロセス
4. 生体機能を利用した物質生産・変換プロセスの話題（後藤）
   (3) 活性汚泥による廃液処理プロセス
5. 有機化学の生い立ち（井上）
6. 身の回りの有機化合物（井上）
7. 身の回りの高分子化合物、本講義のまとめ（井上）

授業に関連するキーワード	分子	原子	有機化学
高分子化学	無機化学	生化学	化学プロセス

成績評価の方法及び合否判定基準

試験およびレポートにより評価する。（詳しくは最初の授業で説明する。）

教科書・参考書等

教科書は使用しない。プリント配布。PC、DVD、ビデオなども使用する。

授業科目名	和文： 材料の世界 ー暮らしと材料ー 英文： Materials Science:World of Materials ;Human Life and Materials					時　間　割	火 5-6
科目コード	506-0160	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	1期後半
受講対象学生	全学部 1〜4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
小玉展宏	工学資源学部	教文３－２０４・２６５０
原基	工学資源学部	工資３－３１８・２４１４
麻生節夫	工学資源学部	工資３－３１７・２４１３

オフィスアワー　曜日及び時間： 火曜７．８時限もしくは予約すれば随時可　**場所：** 各教官室

授業の目的及び到達目標

１．目的

今日の生活と暮らしの中に、深く入り込んでいる種々の材料と資源・環境・エネルギー問題との関連を取り上げる。特に、エネルギー変換材料、光学材料などの機能材料および鉄鋼材料などの構造材料に焦点を当て、それらの働きと応用例を講義する。

１）資源・環境・エネルギー問題に対する材料と材料技術の役割を理解する。
２）金属・半導体・セラミックスの一般的性質を理解する。
３）金属・半導体・セラミックスの応用例を理解する。

２．到達目標

１）資源・環境・エネルギー問題に対する材料と材料技術の役割を説明できる。
２）金属・半導体・セラミックスの一般的性質を説明できる。
３）金属・半導体・セラミックスの合成・加工法と応用例を説明できる。

カリキュラム上の位置付け

材料工学・材料科学を理解するための導入科目である。

授業の概要と進行予定及び進め方

工学資源学部材料工学科３人の教員が各自の専門に近い内容を交代で講義する。

１．光学材料（小玉展宏）
携帯電話や薄型テレビ（プラズマおよび液晶ディスプレイ、有機 EL）、また次世代照明などに使われる発光ダイオード、蛍光体、液晶などの光学材料の機能と役割を理解する。併せて、エネルギー・環境・元素資源の問題と光学材料との関連を理解する。
１）光学機能（発光・吸収現象）の基礎と発光ダイオードと蛍光体による発光のデモ
２）発光材料の役割とディスプレイへの応用、エネルギー問題との関連を説明する。

２．エネルギー変換材料（原　基）
化学、原子力、光などの各種エネルギーは最も使いやすいエネルギー形態である電気エネルギーに変換されて使用されている。本講義では、いろいろなエネルギー変換において重要な役割をする材料についてその概要を講義する。
１）我が国で最も電力供給量の多い熱機関で使用される熱エネルギー/機械エネルギー　変換材料について講義する。
２）将来のクリーンエネルギー源として注目される太陽電池、燃料電池において重要な役割を果たしている材料について講義する。

３．鉄鋼材料（麻生節夫）
我々の日常を支えている鉄鋼材料の基礎と応用について講義する。
１）自動車に使われている鉄とい鋼がなぜそこに使われているかについて説明する。
２）鉄鋼材料に不可欠な熱処理について、日本刀を例に説明する。

授業に関連するキーワード	エネルギー	金属材料	耐熱材料
光学材料	鉄鋼材料	環境	元素資源

成績評価の方法及び合否判定基準

達成目標についてレポート提出を求め、各達成目標の達成率を評価する。
具体的には、３つの講義分野の中から、各々出された課題のうち、１題を選択して指定された期日までにレポートを提出する。
成績はレポート (100%) により評価し、全ての達成目標に 60% 以上の評価を得た者を合格とする。欠席がいずれかの講義について２回もしくは合計３回に達したものは放棄とみなす。

教科書・参考書等

プリントを配布あるいはプロジェクターを使用する。
機能材料を使った実際の製品を一部紹介する。

授業科目名	和文： 情報工学の世界Ａ －現代情報技術の実際－ 英文： Information Technology A:Current Topics of Information Technology					時　間　割	木 7-8
科目コード	506-0173	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	1 期後半
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名	特になし						
内容的に密接に関係する授業科目名	特になし						

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
(責) 玉本英夫	情報工学科	工資Ｖ－506・2774	山口邦彦	情報工学科	総合研究棟 3F 教員室・2477
行松健一	情報工学科	工資Ｖ－504・2778	高谷眞弓	情報工学科	工資Ｖ－309・2784
山村明弘	情報工学科	工資Ｖ－211・2799	景山陽一	情報工学科	工資Ｖ－406・2786
五十嵐隆治	情報工学科	総合研究棟 3F 教員室・2963			

オフィスアワー　曜日及び時間： 授業時に通知する　　**場所：** 各教員室

授業の目的及び到達目標

１．目的

現在，情報通信技術（ICT）は日常的にあらゆる分野で利用されている。その中の幾つかの課題に関する技術的な背景と活用状況を具体的に知ることによって，情報通信技術の実際を理解する。

２．到達目標

1）情報通信技術について説明できる。
2）情報通信技術が，社会においてどのように活用されているのかを説明できる。
3）情報通信技術と私達の身近な生活との関わりを列挙できる。
4）情報通信技術の具体的な長所と短所をそれぞれ列挙できる。
5）現状と比較し，情報通信技術の将来について自分なりの考えを説明できる。

カリキュラム上の位置付け

教養基礎教育の目標「６．本学に所属する教員の固有の専門的力量を，教養教育にも十分に発揮できるカリキュラム体制を目指し，それによる特色と効果を創出する」と深く関わる科目。また，目的・主題別としては，「学問の方法」を重視する。

授業の概要と進行予定及び進め方

１．リモートセンシングの世界
　・リモートセンシングとは何か
　・宇宙から見た地球の現状
　・見えるもの，見えないもの
　・過去から現在，未来へ：得られる情報の活用
２．XML：電子社会を構築する技術
　・XML とは
　・XML 関連技術
　・XML 適用事例
３．匠の技の伝承技術
　・モーションキャプチャ
　・人の動作の記録
　・舞踊符と舞踊譜
　・バーチャルリアリティ
４．社会システムと情報ネットワーク技術
　・社会経済活動と情報通信の役割
　・情報通信ネットワークの現状と展望
　・フォトニクスとユビキタス
　・グローバル化とコミュニティネットワーク
５．ディジタル信号と情報通信技術
　・ディジタルとアナログ
　・信号伝送（情報の伝送）
　・信号の変調と復調
６．半導体から集積回路へ
　・半導体の歴史
　・半導体とはなにか
　・集積回路とはなにか
７．安心・安全な情報通信社会
　・電子政府の実現
　・インターネットショッピングと電子マネー
　・バイオメトリクスの利活用
８．試験

授業に関連するキーワード	リモートセンシング	電子社会	技の伝承技術
情報通信ネットワーク	ディジタル信号	半導体	セキュリティ

成績評価の方法及び合否判定基準

授業最終回の試験により評価する。追試験，再試験は実施しない。
7 回の授業のうち 5 回以上授業に出席しない場合は単位を認めない。

教科書・参考書等

適宜，資料を配布する。

授業科目名	和文：メカライフA －生活のなかの機械工学－ 英文：Mechalife A : Mechanics in Living					時間割	火 5-6
科目コード	506-0191	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	1期後半
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
神谷　修	工学資源学部	工資 2-P304・2730	三浦公久	工学資源学部	工資 2-M213・2344
中村雅英	工学資源学部	総合研究棟４階・2479	巌見武裕	工学資源学部	工資 2-M212・2725
田中　學	工学資源学部	工資 2-P303・2723	足立高弘	工学資源学部	工資 2-M211・2306
奥山栄樹	工学資源学部	総合研究棟４階・2733			

オフィスアワー　曜日及び時間： 火曜日　11：00 ～ 12：00　　**場所：** 工資 2-M213（電話 889-2344）

授業の目的及び到達目標

１．目的
教養として機械工学に関心を持ち，学ぶ楽しさを知ることを目的とする。

２．到達目標
1）機械工学とは，どのような学問であるのかを説明できる。
2）生活の中で機械工学がどのように役立っているのかを説明できる。

カリキュラム上の位置付け

特に前提としている履修科目はない。

授業の概要と進行予定及び進め方

機械工学に基づいて，新しい技術はどのように開発されたか，またどのような生産活動が行われているか，あるいはどのような工夫がなされているか，もの作りの興味を織り交ぜながら，教養としての内容を次のテーマで講義する。
６月１６日　：　人と環境にやさしいものつくり　（神谷　修）
６月２３日　：　生体と流体力学　（中村雅英）
６月３０日　：　未来を開く工業材料　（田中　學）
７月　７日　：　海洋温度差発電と熱交換器-海に潜むエネルギー　（足立高弘）
７月１４日　：　車いすのビューティフルデザイン　（巌見武裕）
７月２１日　：　共振・共鳴現象を考える　（三浦公久）
７月２８日　：　ナノテク路散策　（奥山栄樹）
ホームワーク　：　報告課題「メカライフを受講して考えたこと」（三浦公久）
（講義の順序は都合により変更することがある）
教官によりそれぞれ特色のある工夫がなされ，机上実験，プロジェクターなどを通していろいろな補助教材が使われる。

授業に関連するキーワード	機械工学	入門	

成績評価の方法及び合否判定基準

全７回の講義終了後のレポートと，毎回の講義終了時に回収する質問票（講義によっては質問票の形をとらないこともある）の評価を点数化して成績をつける。レポートの評価はA（150），B（100），C（50），D（0：未提出），質問票の評価はＳ（45），A（40），B（35），C（30），D（0：講義と関係ない質問または質問なし）とし，総合成績は，合計点が 500 満点中 450 点以上をＳ，400 点以上をA，350 点以上をB，300 点以上をC，300 点未満をDとする。（質問票の評価は講義担当の各教官が行う）
成績評価例　レポート：A，質問票：Ｓ１回，Ａ２回，Ｂ３回，Ｃ１回の場合　150 ＋ 1 × 45+2 × 40 ＋ 3 × 35 ＋ 1 × 30 ＝ 410
⇒　総合成績A
質問票の評価点が大きいので講義に出席し，質問票を書いて提出することが肝要となる。メールアドレスを書き入れておけば（読み違いされないようきれいに書くこと）回答をもらえることがある。

教科書・参考書等

授業科目名	和文：コンピュータの科学ＩＡ －コンピュータ科学の基礎－ 英文：Computer Science IA:Fundamentals on Computer Science					時間割	火 3-4
科目コード	506-0241	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1 期
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名	特になし						
内容的に密接に関係する授業科目名	コンピュータの科学 II						

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
林　良雄	教育文化学部	教文４－414

オフィスアワー　曜日及び時間： 水　１５：００～１７：００　　**場所：** 教文４－414

授業の目的及び到達目標

１．目的
コンピュータ科学の入門として、コンピュータ内部でのデータ表現および動作原理について理解する。

２．到達目標
データのデジタル化について説明できる。
論理回路についての説明ができる。
コンピュータの構成について説明ができる。
コンピュータの動作について説明できる。
データ表現とその処理について説明できる。

カリキュラム上の位置付け

本講義は情報処理技術を習得する基礎教育として、重要なコンピュータの動作に関する基礎的知識を習得させるものである。

授業の概要と進行予定及び進め方

授業概要は以下のとおりに進める。
１．ガイダンス（1 回）
２．基礎知識（1 回）
３．デジタル化について（1 回）
４．データ表現について（4 回）
５．ブール代数と論理回路について（4 回）
６．コンピュータの構成について（4 回）

全て講義で行い、板書を中心とする。

４、５、６の中間及び最後には小テストを行う。
基本的には教科書に従って行う。教科書巻末の演習問題は全ておこなっておくこと。また、授業外では下記の参考書や教科書で紹介されている文献を読んでおくと理解が進む。

授業に関連するキーワード	デジタル	ブール代数	論理回路
アーキテクチャ	データ表現		

成績評価の方法及び合否判定基準

成績評価は復習問題の提出状況と４回の小テストを合計した点数で行う。
・毎回授業の最初に前回の授業の復習問題を解き、その場で回収する。合計 20 点
・小テストは 3 回以上受けるものとし、2 回以下のものは放棄とみなす。テスト時に欠席したものの再試験は行わないものとする。合計 80 点

教科書・参考書等

教科書：八村広三郎「計算機科学の基礎」近代科学社
参考書：清水忠昭・菅田一博「コンピュータ解体新書」サイエンス社

授業科目名	和文：コンピュータの科学 II A －グラフとアルゴリズム－ 英文：Computer Science IIA:Graph Theory					時間割	水 5-6
科目コード	506-0251	必修・選択	選択	単位・時間数	2・	開設学期等	1 期
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名	コンピュータの科学 I						

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
上田晴彦	教育文化学部	4-412・2765

オフィスアワー　曜日及び時間： 水曜日　午後２時３０分～午後５時　**場所：** 4-412

授業の目的及び到達目標

１．目的

グラフ理論は、コンピュータ科学・自然科学・純粋数学・社会科学等の様々な分野での基礎的理論となっている。今後専門課程においてより高度な学問を理解する上でも、またコンピュータ科学への興味を喚起する上でも欠かすことの出来ないものである。本授業では、この魅力的なグラフ理論についての基礎事項を論述する。さらにグラフに関するアルゴリズムを学習することで、コンピュータ科学に対する理解を深める。

２．到達目標

以下の２点を到達目標とする。

１）グラフ理論の基礎事項を理解する。
２）アルゴリズムへの応用が出来るようになる。

カリキュラム上の位置付け

グラフおよびアルゴリズムは、コンピュータ科学を専門とする学生だけでなく、他の分野に興味をもつ学生にも十分に役立つ重要な基礎的理論である。本講義では、今後自然科学・社会科学の専門課程に進む学生に対して、将来要求される基礎的概念を身に付けることをカリキュラム上の位置づけとする。

授業の概要と進行予定及び進め方

グラフ理論とそれに関連するアルゴリズムについて、系統立てて論述する。具体的には以下の順に講義を進める。

１）グラフ理論の基礎
　１．グラフとはなにか
　２．木・連結性・分割
　３．周遊・線グラフ
　４．被覆・平面グラフ・４色定理
　５．色分け可能性・グラフと行列
　６．グラフと群・有向グラフ

２）アルゴリズムへの応用
　７．アルゴリズムの基礎
　８．アルゴリズムとデータ構造
　９．アルゴリズムと木
１０．アルゴリズムと有向グラフ
１１．アルゴリズムと無向グラフ

３）まとめ
１２．まとめと試験対策

１３．試験

授業に関連するキーワード	コンピュータ科学	グラフ理論	アルゴリズム

成績評価の方法及び合否判定基準

講義内容に基づいた試験を実施し、その結果で評価する。

教科書・参考書等

教科書は用いず、講義用プリントを配布する。

授業科目名	和文： 資源循環と科学 －希少元素に注目して－ 英文： Resource circulation Society and Science-The case of rare metals					時　間　割	金 5-6
科目コード	506-0350	必修・選択	選択	単位・時間数	1・	開設学期等	1 期後半
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
斉藤準	工学資源学部環境資源学研究センター	2455	柴山敦	工学資源学部環境応用化学科	3051
大藏隆彦	ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー	2877	神谷修	工学資源学部機械工学科	2730
杉山俊博	医学部	6075			

オフィスアワー　曜日及び時間：　　**場所：**

授業の目的及び到達目標

１．目的

希少元素を中心として、資源開発、産業技術、リサイクル、環境、医療等の資源循環型社会の構築に関わる諸様相を、各科学分野の先端的研究を通して理解する。

２．到達目標

・希少元素の科学的および経済的・産業的側面からの重要性を理解する。
・希少元素の資源リサイクルと環境保全を理解する。

カリキュラム上の位置付け

初年度ゼミ相当の科学技術概論である。

授業の概要と進行予定及び進め方

(1) ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー（VBL）の概要と見学（工学資源学部、斎藤教授）
　秋田大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー（VBL）の研究所見学を行い、資源循環型社会の構築に資する「希少元素の資源リサイクルと高度素材設計」プロジェクトを説明する。
(2) 希少元素資源と経済（ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー、大蔵教授）
　希少元素資源の世界的埋蔵量や分布、世界経済における重要性について講義する。
(3) 希少元素と製錬技術（ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー、大蔵教授）
　希少資源の採鉱・製錬技術を講義する。
(4) 先端材料と希少元素（工学資源学部、斉藤教授）
　希少元素の微量添加によって得られる各種先端工業材料を概観する。
(5) 希少元素の資源リサイクル（工学資源学部、柴山教授）
　工業製品に多用されている希少元素の資源リサイクル技術を講義する。
(6) 希少元素の生体影響（医学部、杉山教授）
　希少元素の生体影響の研究の現状を講義する。
(7) 自然環境と土壌浄化（工学資源学部、神谷教授）
　土壌汚染と汚染浄化技術について講義する。

授業に関連するキーワード	希少元素	資源リサイクル	先端材料

成績評価の方法及び合否判定基準

出席（50 %）ならびに達成目標に関するレポート（50 %）によって評価し、60 %以上を合格とする。

教科書・参考書等

特になし